

「地域に開かれたダム」
整備計画

平成 16 年 3 月

美和ダム・高遠ダム水源地域協議会

目 次

1 . 目的	1
2 . 策定までの経緯	1
3 . 整備の基本方針	2
3 - 1 町づくり・村づくりの基本方針	2
3 - 2 「地域に開かれたダム整備計画」の役割	3
3 - 3 「美和ダム水源地域ビジョン」の基本理念と活動テーマ	4
3 - 4 「地域に開かれたダム整備計画」の基本方針	8
4 . 施設整備計画	11
4 - 1 施設整備計画の考え方	11
4 - 2 施設整備計画	17
5 . 維持管理計画	36
6 . ダム関連施設の利用計画	37
7 . ダム湖及び周辺区域の保全と利用計画	39
7 - 1 山・森の保全と活用	39
7 - 2 河川環境の保全と活用	41
7 - 3 美和湖・高遠湖 環境の保全と活用	43
7 - 4 山村文化の継承と活用	44
7 - 5 交流促進と流域連携	45
7 - 6 地域資源を活かした産業活性化	47
7 - 7 いきいき暮らしづくり	49
8 . 整備一覧	50
8 - 1 水源地域ビジョンと整備計画	50
8 - 2 整備一覧表	51

1. 目的

本「地域に開かれたダム整備計画」は、ダム水源地域の自然的、社会的条件等を勘案し、ダム本体・ダム湖及び周辺区域の整備、利活用等に関する事業を計画的かつ一体的に推進することにより、水源地域の自然環境保全、レクリエーション機能等を高め、地域の活性化に資することを目的とした事業計画である。

具体的には、平成15年度に策定された「美和ダム水源地域ビジョン」が目指す「こころわくわく ぐらしいきいき 三峰川の里」の実現のための活動テーマに基づいた事業を推進することにある。

2. 策定までの経緯

平成13年度、美和ダムが国土交通省による「水源地域ビジョン」策定ダムの対象となり、さらに、美和ダム（長谷村・高遠町）は「地域に開かれたダム」にも指定された。

平成14年度、「水源地域ビジョン」及び「地域に開かれたダム整備計画」の策定を目的として、「美和ダム・高遠ダム水源地域協議会（以下協議会と表す）」が設立され、翌平成15年11月、「美和ダム水源地域ビジョン」が策定された。

この「美和ダム水源地域ビジョン」で提示された活動テーマと事業展開案の中から、概ね5年で整備することを前提とした計画を抽出し、整備効果や他事業との連携、事業主体と住民との協力等について事務局で検討した。その検討結果について、長谷村意見交換会（長谷村部会）及び高遠部会を開催し、地域住民及び事業関係者等の意見を聴取した。その後、それらの意見を考慮し、再度事業内容について、事務局会議及び幹事会で検討し、「地域に開かれたダム整備計画」とし実施する内容を取りまとめ、協議会において了承されたものである。

[策定までの経緯]

「地域に開かれたダム」の指定を申請	平成13年11月16日
” の指定を認定	平成14年01月31日
美和ダム・高遠ダム水源地域協議会 設立	平成14年09月02日
「美和ダム・高遠ダム水源地域ビジョン」策定	平成15年11月05日
長谷部会（美和湖等水辺利用意見交換会）開催	平成16年02月01日
高遠部会 開催	平成16年02月10日
「地域に開かれたダム整備計画」策定	平成16年03月30日

3．整備の基本方針

3 - 1 町づくり・村づくりの基本方針

(1) 長谷村

村の基本理念は「子供・若者・お年寄り・そして訪れる人々が楽しく交流し、自然を学ぶ体験学習を基に、心の健康・体の健康・経済的な健康・家庭の健康・社会生活の健康といった人生そのものの健康を養生・創造するため、共に学び生き生きと暮らす豊かで美しいアルプスの里」であり、目指す村のイメージは「アルプスと森と湖の文化村」である。この基本理念と目指すイメージに基づき、まちづくりを推進していく。

(2) 高遠町

都市生活では味わうことのできない自然や住環境の農山村の良さ、天下第一の桜、町の持つ長い歴史、その中で培われてきた文化等は、他にまねができないもの。知恵と工夫で町の財産や宝を今まで以上に生かし、「住んでいたい町、高遠。行ってみたい町、高遠。」「元気のある高遠町」を実現するまちづくりを展開し、地域の発展と活性化を一層推進していく。

3 - 2 「地域に開かれたダム整備計画」の役割

(1) 「地域に開かれたダム整備計画」の必要性

美和ダムは、戦後間もない時代のダム建設であったため、水特法など今日的な水源地への振興施策が実施されなかった。建設後 40 年を迎えた今日も、村民の犠牲者意識は残っており、現在、長谷村からの要望として、三峰川総合開発事業（戸草ダム建設と美和ダム再開発）の実施をきっかけに、美和ダム建設以後積み残した水源地としての振興策を進めているが、水特法に匹敵する支援策が期待できないことから、各種支援策の総合的活用など何らかの工夫が必要である。

美和ダム・高遠ダムは、伊那市をはじめとする下流地域に対して治水・利水（灌漑・発電）を目的としたダムであったため、地域住民や受益地住民から、身近に感じるダムとは言い難い面があった。現在実施中の美和ダム再開発事業も、バイパストンネルや分派堰といった治水施設の整備であり、受益地に対する治水、安全性は高くなるものの、水源地域である長谷村・高遠町の住民にとっての「豊かさ」の提供という点では、直接的な関連が低いといわざるを得ない。

こうした中で地域住民は、美和ダム・高遠ダムとの長い付き合いを経て、今こそダムとその周辺の施設を利活用し、地域住民の元気に資するようなダムを期待している。

平成 13 年に設立した住民有志と行政による「長谷村わくわく会議」は、地域住民が美和湖やその周辺をもっと利活用したいと考えていることを明らかにした。また、平成 9 年度に設立され、今では住民の自主的な活動団体となっている「三峰川みらい会議」でも、三峰川の上流部に位置する美和湖や水源への保全・活用の想いが強く表明されてきている。

このような背景のもと、美和ダム・高遠ダムは、地域住民に親しまれ、地域活性化の拠点として認識され、ひいては地域の「宝」として愛されるダムとなるよう、「地域に開かれたダム」として整備することが必要である。

(2) 「地域に開かれたダム整備計画」の緊急性

長谷村、高遠町は人口の減少と高齢化が進んでいる傾向にあり、今後この傾向を止めることが緊急の課題である。

こうしたことを踏まえ、平成 13 年度に長谷村の活性化方策を検討することを目的として「長谷村わくわく会議」が結成され、平成 14 年度には高遠湖とその周辺の将来像を検討する目的で「高遠みらい会議」が結成された。こうした動きの中で、平成 13 年度から開始された水源地域ビジョンの策定は、地域住民活性化への意欲と期待の高まりを最大限に生かすことにつながる。この機をとらえて、地域のシンボリック存在である美和ダム・高遠ダム周辺の整備を、早急に進めることが必要である。

3 - 3 「美和ダム水源地域ビジョン」の基本理念と「活動テーマ」

「地域に開かれたダム整備計画」は「美和ダム水源地域ビジョン」で示された「活動テーマ」に基づいた事業を推進するための計画である。

「美和ダム水源地域ビジョン」は「こころわくわく ぐらしいいきい 三峰川の里」実現のために、3つの基本理念のもと、7本の「ビジョンの柱」、21本の「活動テーマ」からなっている。その内容は次の通りである。

(1) 「美和ダム水源地域ビジョン」の基本理念

南アルプスの山々、三峰川、美和湖・高遠湖の自然環境を保全し、活用します。

「南アルプスの女王」といわれる高山植物の宝庫である仙丈ヶ岳の玄関口である長谷村は、素朴さと自然が残る山里である。また、高遠湖周辺にある城址公園の1,500本の「コヒガンザクラ」は、県の天然記念物の指定を受け、樹林が保護されている。急峻な山岳である仙丈ヶ岳等を水源とする三峰川は、美和湖・高遠湖に注ぎ、伊那市で天竜川に合流してやがて太平洋にたどり着く。その水源地域の豊かな自然を守り育てるとともに、広く町村外にその良さをPRし活性化につなげていくことが必要である。

山村文化を地域内で育て楽しむとともに、他地域の人々との交流を促進します。

秋葉街道に連なる山あいの村には、その歴史と共に古くから言い伝えられた数々の伝説や文化財が残っている。地域住民が、楽しみながら文化に触れ、自ら参加できる環境作りを推進するための継承者・伝承者を育成していく必要がある。山村文化を地域固有の交流資源として、他地域の人々に積極的に発信していくことも必要である。

くらしや生業を活性化し、いきいきとした水源地域とします。

住んでいる人の暮らしが豊かになり、いきいきと暮らせる生活環境作りには、物資、経済面はもとより、生きがい・働きがい・人とのつながりを念頭に置く必要がある。住んでいる人々がいきいきと暮らす水源地域は、訪れた人々にとっても、「また来てみたくなる」と感じられる魅力ある第二の故郷として印象に残るはずである。

(2) 「美和ダム水源地域ビジョン」の「ビジョンの柱」と「活動テーマ」

ビジョンの7本の柱(以下の～)は、関係各団体の既計画内容や提案内容を総合的に整理した内容をふまえ、住民団体等の計画・提案を中心軸にすえて検討した結果、導き出されたものである。この7つの柱では、大きくは「自然環境の保全・活用」「地域の文化振興や、他地域との交流」「地域住民のくらしの活性化」の3つに関わる内容となっている。

山・森の保全と活用

(活動テーマ1) 魅力ある山と森の創造と環境保全

地元の財産である山と森をこれからも魅力ある存在として、地元住民に再認識してもらうとともに維持していくために住民参加型の清掃等のイベントを開催する。

また、森林の維持管理の段階で発生する、間伐材等の副産物を活用するための研究開発を推進する。

(活動テーマ2) 自然を生かした観光振興

南アルプスの山麓の地域として、山岳観光は重要な観光資源の要素である。この貴重な自然を求めて全国から訪れる人も多くなってきている。その豊かな自然を生かした体験型観光の推進をする。

(活動テーマ3) 環境保全のための人材育成

豊富な森の恵みを維持し、活用していくために、林業後継者の人材確保・育成をおこなう。また、林業経営とともに森を活用したエコツーリズムを推進する人材の育成もおこなう。

河川環境の保全と活用

(活動テーマ4) 川の環境保全・整備

「自然にやさしい河川環境」を維持管理していくためのルールを定め、利用者に普及させると共に、「親しめる川」として自然景観、環境に配慮した施設の整備をする。

(活動テーマ5) 遊びと学びの川の創出

川ならではの遊びと学びのプログラム等を提案し、積極的な利用をすると共に安全面からもフォローできる川のガイドを養成する。

(活動テーマ6) 安全・安心の川づくり

「清流の里」といえる川を次世代に残していくためにも、オーバーユースによる水質汚染等の弊害のないよう管理・監視体制を充実させる。

三峰川は天竜川に流れ込む一番大きな支流で、暴れ天竜のもとになる川といわれており、過去の災害の歴史からも治水・砂防事業は重要である。事業に際しては、自然景観と融合したデザインになるよう検討する。

美和湖・高遠湖の環境の保全と活用

(活動テーマ7) 湖周辺の環境整備

地域住民や観光客が利用できる、憩い・癒しの空間として湖の作り出す景観を活かした総合公園の整備を進める。アウトドア・自然体験志向の高まるなか、滞在型観光客の増加に期待できる施設の整備を検討する。

(活動テーマ8) 湖の憩いと賑わいの創出

湖を利用した様々なプログラム(遊び)を提案し、指導・案内できるガイドを養成する。

また、水辺の散歩道も整備等により、湖を中心とした観光ネットワークルートとし、憩い賑わいのある空間を創出する。

(活動テーマ9) 安全・安心の湖づくり

湖の良好な環境維持や利用のルールづくりを検討し、周知徹底させていく。

また、防災の面からも堆積土砂量を軽減化するため、バーストン礼・分派堰の整備を推進する。

山村文化の継承と活用

(活動テーマ10) 地域の風土・景観の保全と形成

3000 M級の連なる南アルプスの山間の村として、素朴なふるさとの原風景を今も残している長谷村。桜で有名な高遠城を中心に受け継がれてきた文化と伝統の町である高遠町。2つの町村の固有の風土や景観を保全していくとともに、新たな整備をする際には、地域に合った景観に配慮した整備を進めていく。

(活動テーマ11) 山村文化体験と再発見

長谷村・高遠町の文化を改めて発掘・伝承し、地域住民が、地域の誇りを持つとともに、それらを体験できるように継承者・伝承者を育成していく。また、資料館等を整備し、交流の場として活用する。

都市との交流促進と流域連携

(活動テーマ12) 都市住民との交流促進

体験型の旅行、自然派志向、田舎暮らしをキーワードとし、単なる観光ではなく都市住民とのふれあいを主目的とした観光を推進する。

(活動テーマ13) 上下流域住民の交流と連携

三峰川を通じた上下流住民の交流を目的として、様々な交流やイベントを推進する。

(活動テーマ14) 交流促進のための情報発信

観光を通して広がる交流の輪をより大きく波及するように、広報誌やインターネットの利用により広く情報発信する。

(活動テーマ15) 交流促進を担う人材の発掘と育成

山、川、湖等の自然や文化を対象としたガイドを含め、水源地域における他地域住民との交流促進を担う人材を発掘・育成する。

地域資源を活かした産業活性化

(活動テーマ 16) 特産品の開発

地域経済の発展の意味も含め、「長谷・高遠」らしさを感じられる、地元の資源を活かした「長谷・高遠ブランド産品」の開発の取り組みを推進する。

(活動テーマ 17) 市場開発・販路の拡大

消費者の拡大に向けた取り組みとして、地域のファンを組織化し、機関紙の発行、定期的な産品提供、交流活動を提供する。このような交流を通じ、得られた消費者の生の声を特産品づくりにも反映していく。

(活動テーマ 18) 担い手の確保育成

減少する農業従事者の確保のためにも、後継者の確保が重要である。子供の頃から農業に対する興味、関心を向けてもらうために、農業体験学習を推進する。また、U・Iターンによる新規就農希望者の確保のための、受入れ体制の充実を図る。

(活動テーマ 19) 産業基盤整備

地元での購買力の低下に歯止めをかけ、活気ある商業施設とするために、商業形態の見直し、集約化を推進する。また、農業生産性向上のために、農業基盤の整備を推進する。

いきいき暮らしづくり

(活動テーマ 20) コミュニティ活性化

地域住民のコミュニティを活性化するために、地域内で活動する各種団体のネットワーク化を図り、人材交流、情報交流、活動の連携を推進する。これらを展開するにあたって、活動の拠点施設も整備する。また、高齢化社会を迎え、コミュニティ交通も充実させていく。

(活動テーマ 21) 生活基盤整備

水源地域の住民自らが、気持ちよく生活し、下流域へも美しい水を提供するために、ごみのリサイクルや下水道整備等を進め、環境に優しい水源地域を目指す。

3 - 4 「地域に開かれたダム整備計画」の基本方針

前項に示した「美和ダム水源地域ビジョン」の「活動テーマ」に沿った、効果的でより推進できる事業計画を策定するために、「地域に開かれたダム整備計画」の基本方針を次の通り定めた。

(1) ソフト・ハード事業の連携や事業間のネットワークを重視した計画とする。

「美和ダム水源地域ビジョン」で示された「活動テーマ」は、それぞれ単体として十分機能するものではなく、各事業が相互に関係しあって、相乗効果を得ながら機能するものである。

例えば施設整備等を活動テーマにしたハード事業は、森林、川、湖、文化、産業活性化、コミュニティ活性化などの分野におけるソフト事業を効果的に推進していくためのフィールド整備であったり、拠点施設整備であったり、基盤整備であったりする。

ソフト事業についても、環境保全と観光振興、賑わいの創出、交流促進などはそれぞれ連携し一体的に推進することで、はじめてそれぞれに効果が期待できるものである。

また、各分野での事業を推進には、人材の確保・育成・活用が重要であるが、そうした人材育成・活用なども事業分野を横断して取り組むことで、効果を上げていくことができる。

このように、各事業を単独で機能させるのではなく、各事業を連携させて、情報や人材のネットワークを組み活用することで、機能させるような計画とする。

さらに、様々な分野の事業がうまく連携されて、地域の活力と魅力が創造されていくことを最終的に目指したものとする。

(2) 住民の積極的参加を促進し、事業参画者との連携の強化が期待できる計画とする。

「美和ダム水源地域ビジョン」は、山・森・川・湖を保全・活用するための活動・ルールづくり、エコツーリズム・グリーンツーリズムの推進や湖遊びのプログラムの創出、地域に育まれてきた文化の継承と活用、都市住民や流域住民との交流連携、産業やコミュニティの活性化に関する取り組みなどが含まれている。

これら事業の成功には、細かな配慮や気配りのある計画と運営が必要不可欠であるため、住民の参加なくしては推進し得ないものであるため、本「地域に開かれたダム整備計画」においても、住民の積極的参加を促した計画とする。

また、事業間の連携やネットワークとともに、住民、各種団体、市町村、県、国の連携やネットワークも重要である。様々な参画者間の連携によって、新しいアイデアの創出や、住民や各種団体の現場での取り組みを行政が支援・協力することなどによる推進力の強化等、また、活動拠点となる施設整備、情報発信面での支援、人材育成における支援などにおいても、役割分担を図ることが可能となり、事業の効果的な推進が期待できる。

上下流域間など地域間の参画者の連携・交流促進なども、各地域の特性を活かした魅力の創出や、河川の保全・活用の効果的推進等を行うことができ、さらに、「活動テーマ」では都市住民との交流促進を掲げているが、これは幅広い意味で村づくり、町づくりに対する都市住民への協力を求めるものである。

本「地域に開かれたダム整備計画」においても、住民、各種団体等と事業参画者との連携を強

化した計画とする。

(3) 既存施設を最大限利活用した計画とする。

「美和ダム水源地域ビジョン」で示された「活動テーマ」を実施推進するにあたり、その活動拠点や場所とつながる施設として、既存施設を最大限利活用する。

長谷村の美和ダム堤体周辺には、道の駅「南アルプスむら」をはじめ、隣接して「南アルプス公園」「美和診療所」「サンハート美和」「美和ダム管理所」「鶴亀公園」などが整備され、もしくは整備中である。また、「長谷村総合グラウンド」や「中央構造線公園」南アルプス生涯学習センターの「入野谷」、登山の拠点となる「仙流荘」なども、ここ数年で整備された。

高遠町は、高遠ダム周辺に有名な桜の名所「高遠城址公園」、隣接して「信州高遠美術館」「高遠歴史博物館」があり、その湖対岸には「高遠さくらホテル」「ほりでいパーク」が整備されている。

これらの既存施設そのものの利用だけでなく、その施設利用者を活動へ誘えるような、また、既存施設利用を合わせた新しい魅力や活動の提案なども含めた計画とする。

そして、既存施設に新たな機能や施設を加えることでより利活用が図れる場合や、「活動テーマ」をより効果的に実施するためにどうしても新たな施設が必要な場合に限り、施設整備をおこなうものとする。

(4) 事業が効果的に推進できるような活動拠点や活動エリアを配置した計画とする。

「活動テーマ」を実施するのにあたり、その活動に相応しい自然環境（川や湖、地形、眺望、動植物等）や歴史文化資源（史跡、寺社、風土、伝統等）がある場所、その活動の支える既存施設を有効利活用できる場所、そして、既存施設や他の活動等と連携が可能な場所を、活動拠点・活動エリアとした計画とする。

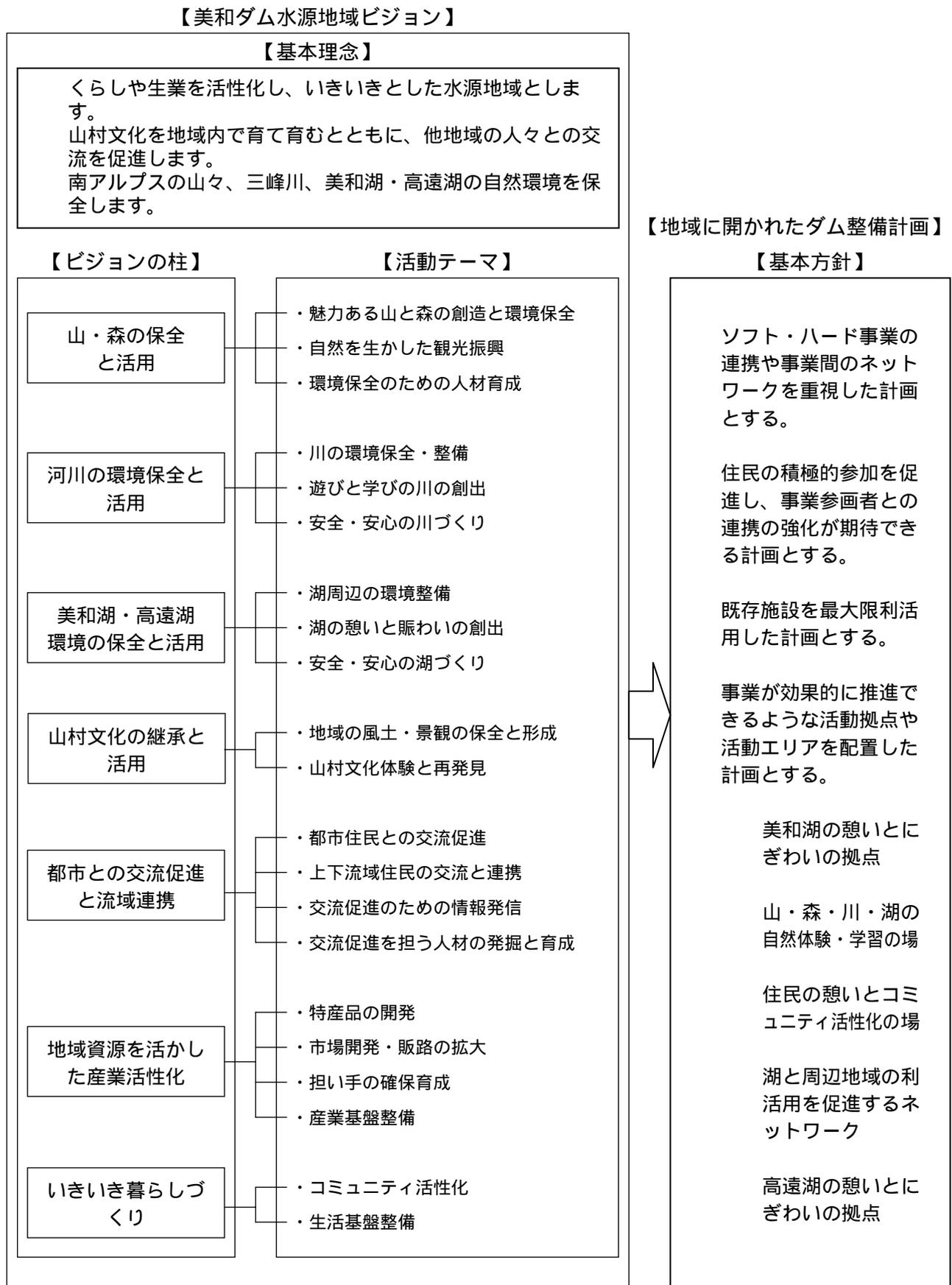
そうすることで、本水源地域にある山・森・川・湖といった恵まれた資源を効果的に保全・活用し、また、様々な活動が相互に連携し互いに効果を高めていくことが期待できる。

各「活動テーマ」と本水源地域の自然や地形、既存施設の状況から、この活動拠点・活動エリアを次のように設定した。

- 美和湖の憩いとにぎわいの拠点
- 山・森・川・湖の自然体験・学習の場
- 住民の憩いとコミュニティ活性化の場
- 湖と周辺地域の利活用を促進するネットワーク
- 高遠湖の憩いとにぎわいの拠点

この活動拠点・活動エリアでは活動をより推進するために、既存施設を利活用しながら、必要に応じた施設整備をおこなう。

「美和ダム水源地域ビジョン」と「地域に開かれたダム整備計画」の関係図



4．施設整備計画

4 - 1 施設整備計画の考え方

前項の基本方針の活動拠点・活動エリアの配置の考え方に基づいて、活動を効果的に推進するための施設を整備する。施設整備の内容は「美和ダム水源地域ビジョン」で提示された活動テーマに沿ったものとする。

(1) 美和湖の憩いとにぎわいの拠点

湖の自然環境を活かし、地域住民や観光客が憩える、楽しめる、そして、集い交流できるような環境を整備する。「美和ダム水源地域ビジョン」の活動テーマでは、湖の環境整備、湖の憩いと賑わいの創出、安全・安心の湖づくり等に対応した整備であるが、そこでの期待される活動は広く、都市住民や上下流域住民との交流促進や交流促進のための情報発信、自然を活かした観光振興等まで及ぶ。

計画対象地として3つのエリアを設定した。

ひとつは関連の既存施設が集積し、その利活用が大いに期待できる、美和ダム管理所から道の駅「南アルプスむら」一帯である。

このエリアは、長谷村及び美和湖の入口にあたり、管理所に隣接してダム堤体、道の駅「南アルプスむら」、南アルプス公園、美和診療所、サンハート美和などが配置され、今年度末にオープンする美和ダム管理所広報室や道の駅「南アルプスむら」は情報拠点としての機能を持つ。

駐車場は道の駅「南アルプスむら」と南アルプス公園の駐車場の他、現在整備中の美和ダム管理所駐車場が利用可能である。また、道の駅「南アルプスむら」は東京と結ぶ高速バスの停留所になっている。

美和診療所は健康増進センターを併設し、更に、関連の小規模多機能施設等の設置が検討され、住民の健康福祉に関するセンター的な役割を担っている。また、サンハート美和はユニットケアを採用した新しいタイプの特別養護老人ホームとした昨年オープンした。湖面ではカヌーや水上バイクなどの舟着場としても利用されている。

以上、本エリアは目的型利用者に限らず、広く立ち寄り型来訪者の利用も多く見込まれ「憩いとにぎわいの拠点」として十分な機能を既に有している。

このエリアは、位置と既存施設の内容から、美和湖の入口としての機能も期待できる。そのため、地域案内やルール及び遊びプログラム等の情報発信と各種レクリエーションの窓口、エコツーリズムやグリーンツーリズムの基地など、各活動の拠点としての利活用の推進を図ることができる。またそれら活動の拠点となることで、より一層賑わいが期待できる。

2つめのエリアは、分派堰下流に計画されている美和レイクハイランドである。美和レイクハイランド計画は、平成2年度より進められ、三峰川総合開発関連整備計画の中で長谷村振興計画の中核として、親水性の高い公園的環境の中での屋外スポーツ・レクリエーションゾーンとして位置づけられている。

大きなイベントやあさいち市等が開催でき、都市住民や上下流域住民との交流等の推進が期待できる整備を目指している。

また、計画対象地周辺、山側上には、マレットゴルフ場、南アルプス鹿公園、八人塚、良の古城跡、農村公園（整備予定）、アストロメリア花畑など地元住民のレクリエーション施設や史跡が多く点在し、これら施設を利用した活動の連携などが図れる。

3つ目のエリアは、仙流荘周辺である。

仙流荘は南アルプス登山の入口にあたり、3000M級の山々を背景にした溪流沿いの宿泊施設であり、隣接して南アルプス村営バスの営業所がある。南アルプス登山、周辺ハイキング、溪流釣り、自然観察、川遊びと自然との触れ合いが楽しめる場所である。また、仙流荘前の河川公園にはマレットゴルフ場も整備された。シーズンには登山客や野外レクリエーションを楽しむ家族連れなどで賑わっている。

本施設整備計画では、この3つのエリアを活動拠点として、既存施設の機能を補完し、より利活用されるための整備をおこなう。

レイクフロント整備（長谷村）
南アルプスむら周辺整備（長谷村）
「美和湖いざないのふる里」ゲート整備（長谷村）
美和レイクハイランド整備（長谷村）
仙流荘周辺公園整備（長谷村）

（2）山・森・川・湖の自然体験・学習の場

湖及びその周辺の豊かな自然にふれ、自然を体験し学習できる環境を整備する。自然とのふれあいや自然体験学習は、本地域の特色を活かしてこそできるものである。子供たちの自然体験だけでなく、多くの観光客もこの自然を求めて訪れている。

「美和ダム水源地域ビジョン」の活動テーマでは、自然を活かした観光振興、遊びと学びの川の創出、湖周辺の環境整備等に対応した整備であるが、そこでの期待される活動は環境保全や安全・安心の川づくりと湖づくりなど、豊かな自然を守り育てるものである。小中学校の授業やエコツーリズム、グリーンツーリズム等との連携による活動の推進も期待できる。

計画対象地は小中学校に隣接し、児童・生徒の自然体験学習の場として検討が行われてきた小犬沢周辺、中央構造線が見られる中央構造線公園、そして分派堰完成後に撤去される猿橋、南アルプスの眺望が素晴らしい中尾三峰川橋周辺、「気場」として有名な分杭峠周辺とする。

本施設整備計画では、それぞれの場所の自然の特徴を活かし、自然体験と学習のための活動が期待できるような環境整備（公園づくり）をおこなう。

小犬沢親水公園整備（長谷村）
中央構造線公園再整備（長谷村）

猿橋公園整備（長谷村）
中尾三峰川橋周辺公園整備（長谷村）
分杭峠公園整備（長谷村）

（３）住民の憩いとコミュニティ活性化の場

地域住民の憩いやコミュニティ活動に利用されるような環境を整備する。

「美和ダム水源地域ビジョン」の活動テーマでは、遊びと学びの川の創出と産業（農業）基盤整備に対応した整備であるが、そこでの期待される活動はコミュニティ活性化や山村文化体験、生活環境整備など、地域住民の豊かな生活を目指した活動である。グリーンツーリズム等との連携も視野にいれることができる。また、長谷村は、生活の豊かさと住み易さを実感できる村づくりを、将来像のひとつとして掲げている。

計画対象地はコミュニティ施設が整備されたざんざ亭周辺と集落内にあり、現在計画が進められている黒河内農村公園である。

本施設整備計画では、ダム周辺の自然環境を活かした質の高い生活環境、定住環境づくりを目指し、コミュニティ活性化の活動が推進できるような環境整備（公園づくり）をおこなう。

ざんざ亭周辺公園整備（長谷村）
黒河内農村公園整備（長谷村）

（４）湖と周辺地域の利活用を促進するネットワーク

美和湖・高遠湖の水辺を周回し、周辺施設を結ぶ散策路のネットワークを整備する。

「美和ダム水源地域ビジョン」の活動テーマでは、湖の憩いと賑わいの創出に対応した整備となるが、多くの野外活動の基盤となる整備である。観光振興や交流、エコツーリズムやグリーンツーリズム、山村文化体験やコミュニティ活性化などの活動の舞台となる。

具体的には湖畔の既存道路や園路を利用して、湖の自然を満喫できる散策路コースを設定する。コースは本施設整備計画で計画された公園等も含め、湖畔の各観光資源や施設を結ぶことで、地域全体の利用推進の役割を持つ。整備は、散策路として、既存道路野の安全性の確保や修景を中心に行うが、必要に応じて新たな散策路を新設整備する。

また、高遠ダム下流域の散策路や高遠城址公園、五郎山、枝垂れ桜など周辺観光施設や資源等ともつなぎ、広域の観光ネットワークの形成も目指したものとする。

湖岸散策路の整備（長谷村・高遠町）
美和ダム左岸道路（長谷村）

(5) 高遠湖の憩いとにぎわいの拠点

高遠湖周辺の自然環境と湖畔に点在する多くの観光施設を利活用して賑わいを創出する。

「美和ダム水源地域ビジョン」の活動テーマでは、湖周辺の環境整備、湖の憩いと賑わいの創出、安全・安心の湖づくりに対応した整備となるが、高遠湖を舞台にしたあらゆる活動テーマの基盤となる整備である。環境保全から観光振興、地域の風土の保全と形成、交流促進、コミュニティ活性化などの活動促進が期待できる。

計画対象エリアは高遠湖周辺全体である。

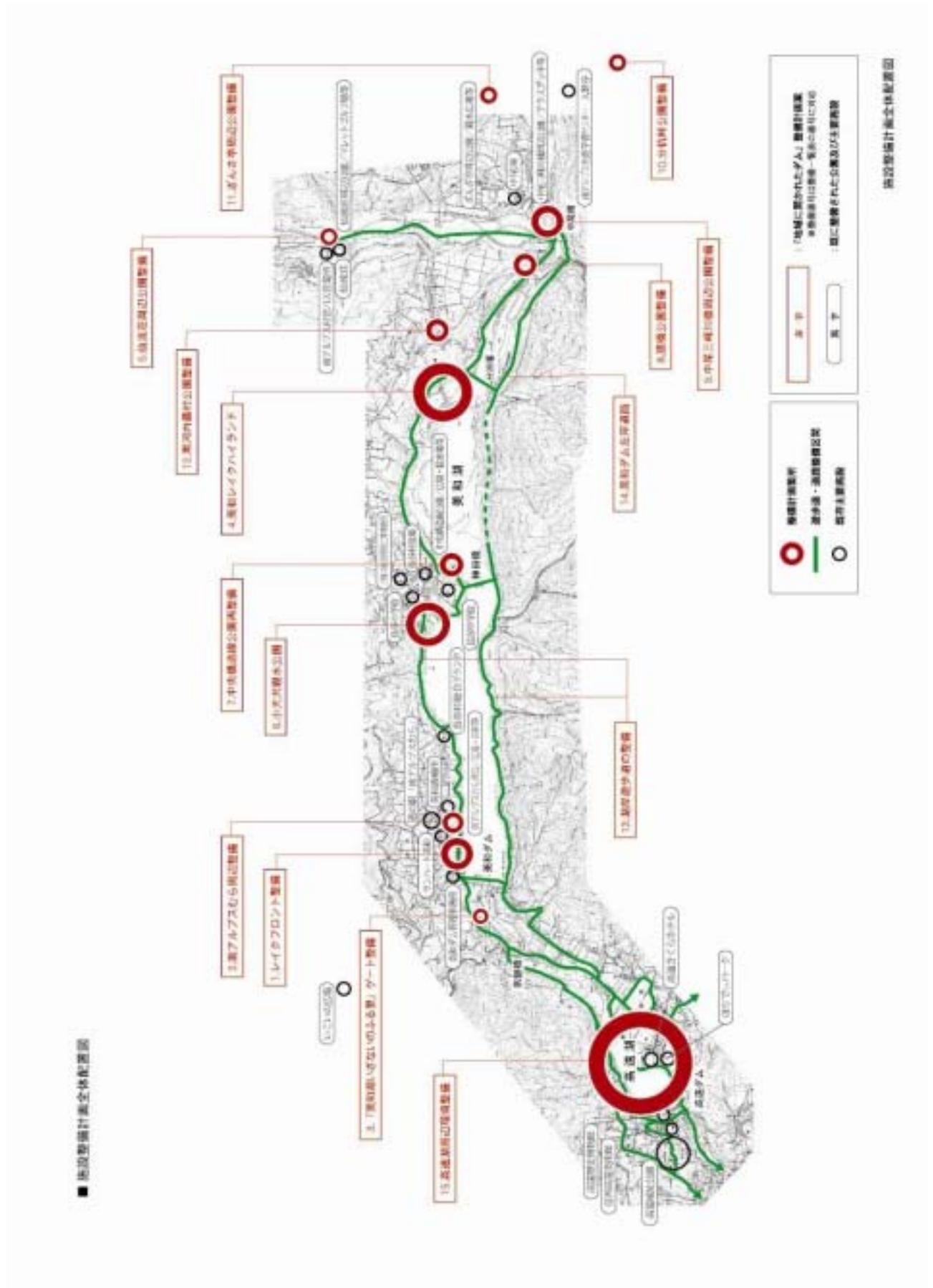
高遠湖は湖面ではボート、カヌーなどが楽しめて、また周辺には桜で有名な高遠城址公園、町立歴史博物館、信州高遠美術館、高遠さくらホテル、ほりでいパークなどが点在し、本地域で最も観光施設が集まっているところである。

春のさくら祭りは全国的に有名で、「タカトオコヒガンザクラ」の高遠城址公園を中心に、県内外からの花見客を集め、毎年盛大に行われている。これらの施設を核に、高遠湖の豊かな自然環境を活かし、より一層の賑わいの創出を目指した整備を行い、花見の春だけでなく、四季それぞれに楽しめるような環境整備とする。

高遠城址公園を訪れた多くの観光客を高遠湖へ導けるようにしたい。高遠城址公園とは地形の高低差があるが、距離的に遠くなく、また、本計画対象地との間には高遠歴史博物館と信州高遠美術館があり導きやすい状況ではある。導くには高遠城址公園からのアクセス道路や高遠さくらホテル側の魅力づくりがポイントのひとつと考えられるので、そのような魅力づくりにつながるような環境整備を目指す。

高遠湖周辺環境整備（高遠町）

施設整備計画全体配置図



(1) 美和湖の憩いとにぎわいの拠点

レイクフロント整備

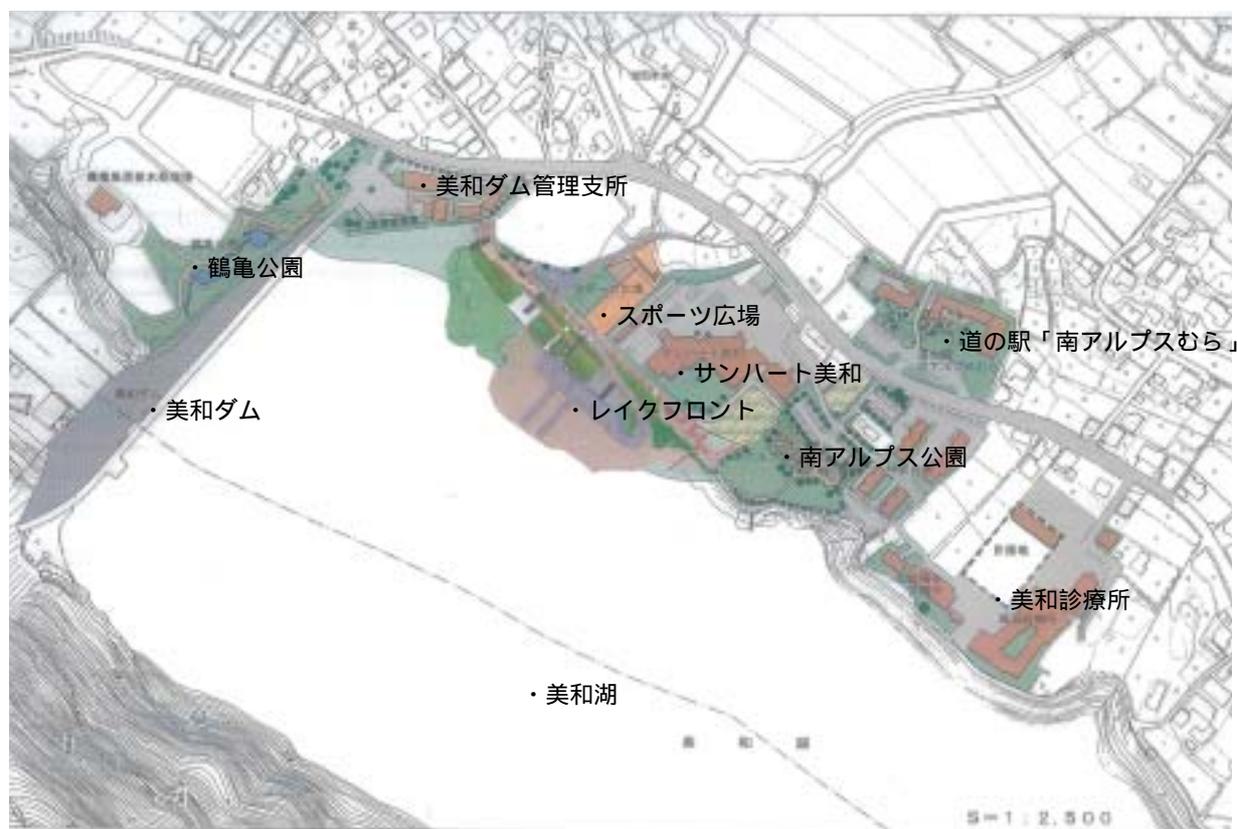
美和ダム管理所と南アルプス公園・道の駅「南アルプスむら」を結ぶように湖岸沿いを整備する。整備によって、各施設相互の連携による一体的な利活用を、より推進することが期待できる。

湖面利用の舟着場として利用されていることから、湖上交通の起終点として、また湖上レクリエーションの基地として、カヌー・Eポート等の舟着場や湖内への進入坂路の整備をはじめ、法面の活用整備、広場、植栽整備を含め、周辺エリアと一体的になるような環境整備を行う。

また、美和ダム管理所と南アルプス公園を結ぶ水辺散策路を整備し、舟着場利用者のためのトイレを設置する。

[レイクフロントイメージスケッチ]

全体図



拡大図

平面図 Scale 1:1200



南アルプスむら周辺整備

南アルプスむら周辺は植栽、園路、広場など公園的な整備は大部分が既に完了している。

本計画では整備後の利用者増大に対応した公衆トイレを南アルプス公園内に整備する。

トイレは道の駅「南アルプスむら」施設、および南アルプス公園と違和感のない一体的なデザインとする。

「美和湖いざないのふる里」ゲート整備

現在、長谷村入口を示すものは国道沿いの道路標識等だけである。もしくは美和ダムの圧倒的な堤体が入口のランドマークとなっている。

水源地域、長谷村、美和湖の玄関口であることを示し、訪れた人々に期待感をもたせるようなゲートとして、村や美和湖のイメージ伝えられるようなモニュメントを設置する。

デザインは国道からのランドマークになり、かつ、自然景観に配慮したものとする。

美和レイクハイランド整備

分派堰に隣接した広大な砂利掘削工事の搬出口及び堆積土仮置施設跡地等を利用し、地元住民から観光客、高齢者から子供まで、湖環境の中で交流し楽しめる総合的なレクリエーション施設を整備する。

中心には陸上競技以外にサッカーや野球ができ、大きな大会や催しにも利用可能な大型の多目的グラウンドを配置し、湖環境を活かしたファミリー向けオートキャンプ場や湖上で楽しむカヌー、Eボート、水上バイクなどが楽しめる広い舟着場を整備する。

また、山上の鹿公園と散策路で結び、その入口に緑の広場、湖景観を楽しめる展望エリア、ダムを紹介し案内するPR館、レイクハイランド利用者の大型駐車場などを併設する。

仙流荘周辺公園整備

仙流荘は国道152号三峰川橋分岐点から黒川沿い約2km入ったところに位置し、南アルプスの入口として「気軽にアウトドアを満喫するための宿泊施設」として運営されている。周辺には屋内ゲートボール場、マレットゴルフ場があり、黒川での溪流釣りや河川敷を利用した林間学校等とともに、自然に囲まれたレクリエーションの場となっている。また、南アルプスを走る村営バスのバス停と登山客の駐車場を備えるなど南アルプス登山の拠点としても重要な役割を果たしている。

夏の繁盛期に対応した臨時駐車場を整備するとともに、駐車場やマレットゴルフ場等既存施設を結び、河川沿いの自然にふれあえるような散策路を整備する。

[美和レイクハイランドイメージ図]



(2) 山・森・川・湖の自然体験・学習の場

小犬沢親水公園（総合学習の場）

本計画地は既に地元住民の意向を踏まえた計画プランが立案されており、集落や小学校に隣接した立地条件を活かした環境づくり、地元住民の生活環境の向上、及び小学校や中学校の学習活動に役立つ空間整備の方向性が示されている。

長谷小学校と長谷中学校における野外環境学習活動の場に相応しい環境とともに、メダカやホタルなどの生息環境を整備する。

環境整備に当たっては、湖面水位の変動に配慮するとともに、地形の改変は極力避けて、現況環境をできるだけ活用する。

[小犬沢親水公園イメージスケッチ]



中央構造線公園再整備

計画地は美和ダム湖畔に露頭した中央構造線を見学・学習できる公園として、駐車場や園路、案内解説板、植栽等が整備されたが、実際に中央構造線を見学できる場所は斜面で狭く、安全性に問題がある。また、露頭の一部に崩落が見られ保全も求められている。

中央構造線を安全に見学できるスペースを整備する。また、露頭の保全措置を行う。見学スペースは湖の水位差や流木等に考慮しながら、安全を十分確保したスペースとする。

また、中央構造線の解説板は公園入口部にもあるが、見学する場所に実際のものを見ながら学べる説明板を設置する。

猿橋公園整備

分派堰完成後、取り壊しが予定されている猿橋の橋台跡地付近を猿橋記念園地として整備する。思い出となる碑の設置を中心に植栽等を整備する。

中尾三峰川橋周辺公園整備（南アルプス眺望公園）

計画地は、三峰川に黒川が合流する堰と合流後の三峰川を渡る三峰川橋の周辺である。

橋の左岸周辺は南アルプスへの素晴らしい眺望をもち、国道 152 号から唯一鋸岳を望める場所でもある。

すでに公園整備としてテラスデッキは完成しているが、本計画ではこの公園整備を南アルプス（鋸岳）への眺望や河川環境をより活かした内容として継続する。橋袂にある小さな山の山頂で眺望をより楽しめるように、山頂までの園路や山頂のベンチ等を再整備する。

また、河川沿いでは、護岸整備が進められているが、その整備の継続と飯島堰堤での魚道改良の整備をおこなう。

分杭峠公園整備

「分杭峠」は長谷村西南端に位置し、上伊那郡と下伊那郡とを結ぶ峠で、かつては秋葉街道の要所であった。標高 1420m ほどで見晴らしが良く、遠く美和ダム湖まで眺めることができる。

最近、峠分岐そばにゼロ地場の「気場」が発見され、興味をもつ多くの人たちが訪れている。しかし「気場」周辺は地すべりを起こしている急斜面であるため、安全確保が求められている。

「気場」に安全に訪れることができるような公園として、「分杭峠」周辺を整備する。

「気場」及びその周辺を散策・見学できるような休憩・見学スペースと散策路、見学者のための駐車スペース、トイレを整備する。

(3) 住民の憩いとコミュニティ活性化の場

ざんざ亭周辺公園整備

ざんざ亭は古い民家を昔懐かしい雰囲気風に改築し、郷土料理が味わえる宿泊施設である。隣接して同じような民家風外観のコミュニティーセンターが整備されている。周辺は山岳地方の農村風景が広がり、ざんざ亭前には三峰川が流れており、シーズンには釣りや川遊びを楽しみに多くの人を訪れる。

また、河川利用者と、ざんざ亭周辺にある地域スポーツレクリエーションの場であるグランド利用者が使用できるようトイレを設置する。

黒河内農村公園整備

活性化への重要な課題のひとつとして、黒河内でおこなわれている花まつり等のイベント会場の確保がある。大勢の参加者を受け入れ、地区の交流人口を拡大することによって、長谷村の花の知名度を上げ、さらにその他の農産物を紹介及び販売し、農業所得の向上が期待される。

その会場として利用できる公園を整備する。

(4) 湖と周辺地域の利活用を促進するネットワーク

湖岸散策路の整備

右岸については、整備された国道歩道と、湖畔に整備中のレイクフロント、レイクハイランドなどいくつかの施設内の園路を利用して、遊歩道として湖岸を巡ることができる。

また、これら施設内に休憩や眺望のポイントが随所に整備される。

左岸については、既存道路を利用することができるが、現在は落石等があり、散策路としては危険な状態である。また、スペースに余裕も無く、休憩や眺望のポイントは用意されていない。

新たに遊歩道の整備を行うのは景観・現況林の保全の面から負荷が大きく、地形構造からも膨大な費用がかかる。そのため、既存道路を遊歩道として活用し、整備は安全確保に主眼をおいた落石防止のネットやフェンス、防護柵の設置とトンネル内の照明設置等とする。

この左岸へ人を導くために、左岸道路沿いや周辺にスペースが確保できる箇所においては、眺望や休憩のためのベンチ等を設置するとともに、住民等の協力で植栽の整備を行う。

美和ダム左岸道路

美和湖左岸道路については、左岸三峰川橋より分派堰まで、神田橋より美和ダムまではすでに道路整備がされており、分派堰から神田橋までが未整備となっている。この未整備区間を整備すると美和湖周遊道路として各施設間ネットワークが構築される。また、この区間の林業施業のために要望されている。

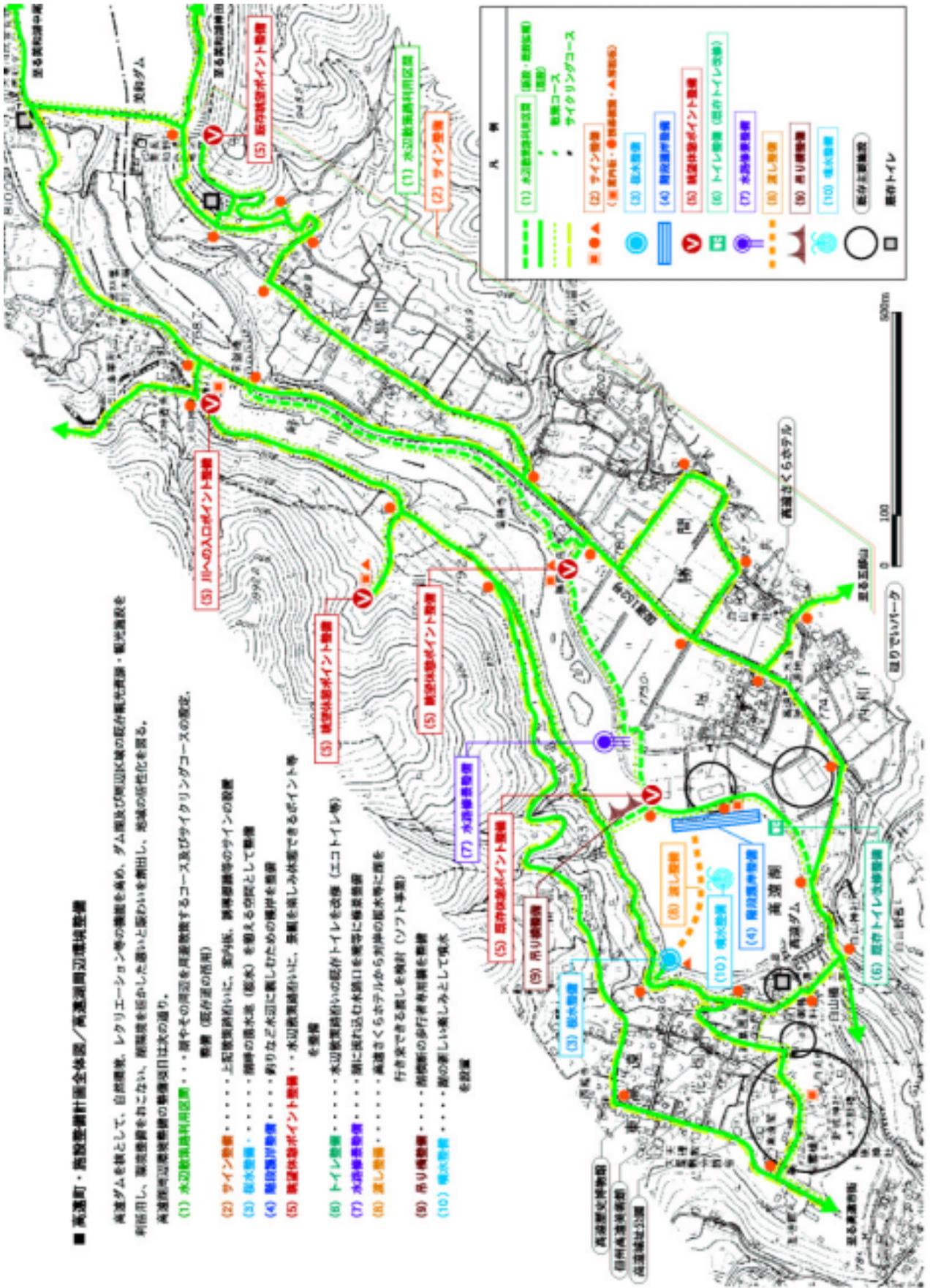
■ 高遠町・施設整備計画全体図／高遠湖周辺環境整備

高遠ダムを核として、自然遊歩、レクリエーション等の機能を高め、ダム周辺及び周辺区域の既存観光資源・観光施設を
 利用し、観光価値を高め、観光客を招いた遊歩と遊歩を創出し、地域の活性化を図る。
 高遠湖周辺環境整備の整備項目は次の通り。

(1) 水辺散策利用区域・・・湖やその周辺を周遊散策するコース及びサイクリングコースの形成。

整備 (既存道の活用)

- (2) サイン整備・・・上記散策路沿いに、案内板、誘導標識等のサインの設置
- (3) 景観整備・・・湖岸の湧水池 (取水) を憩いの空間として整備
- (4) 施設整備・・・釣りなど水辺に親しむための遊歩を整備
- (5) 高遠湖ポイント整備・・・水辺散策路沿いに、景観を楽しくみられるポイント等
を整備
- (6) トイレ整備・・・水辺散策路沿いの既存トイレを改修 (エコトイレ等)
- (7) 水辺遊歩整備・・・湖に親しみ水辺口を境等に整備
- (8) 遊歩整備・・・高遠さくらホテルから湖畔の取水等に遊歩
行き来できる遊歩を検討 (ソフト事業)
- (9) 吊り橋整備・・・湖間断の歩行者専用橋を整備
- (10) 取水整備・・・湖の新しい楽しみとして取水
を促進



(5) 高遠湖の憩いとにぎわいの拠点

高遠湖周辺環境整備

湖周辺の既存観光施設をつなぎ、高遠湖を周回できる散策路を設定する。散策路は歩くコースとサイクリングコースを設定し、幅広い利用や楽しみ方ができるようにする。散策路の大部分の区間は国道、県道、町道などの既存道路を利用するが、一部区間は新規に整備する。

新規に整備する区間は、高遠さくらホテル脇の四阿から勝間公民館そして常盤橋までの井筋沿いの区間で、井筋の蓋かけや井筋沿いの小道拡幅等の整備をする。また、上記の高遠さくらホテル脇の四阿から勝間公民館までの散策路区間には、サクラやモミジの植栽を施す。

その他、必要に応じて、眺望確保のための樹木伐採や剪定、景観形成のための植栽及び安全施設（防護柵、手すり等）の設置をおこなう。

この散策路は前項のネットワークの一部として、高遠本通りや五郎山、勝間のしだれ桜などの周辺観光レクリエーションポイントのほか、美和湖散策路や高遠ダム下流散策路ともつなぎ地域の観光ネットワークの形成を目指す。

散策路沿いには、利便性を確保したサインや休憩、眺望を楽しめるポイント等を設ける。

サインは、水辺散策路の全体コースや水源地域全体を対象に案内紹介する案内板と、水辺散策路のコースや周辺主要資源や施設へ誘導する誘導標識、設置場所からの景観や設置場所の特徴的な自然や歴史等を解説する解説板も設置する。

サインデザインは水辺散策路としての統一性や連続性をもち、また、美和湖・高遠湖の景観に相応しく、楽しさを伝えるような固有のデザインで、高齢者に見やすく、理解しやすい表示方法をもち、維持管理に配慮した材質等とする。

サインの設置場所は視認性を確保するとともに、景観に配慮した場所とする。既存サインと重なる場合は、どちらかにそれぞれの表示内容を加え、サインの乱立を避ける。

休憩・眺望ポイントは既存の公園やちょっとした広場や空間などを利用して整備する。整備内容は箇所状況にもよるが、伐採や剪定程度の植栽整備から、ベンチや四阿の設置まで検討する。

休憩ポイントともなるが、湖畔の桜水という湧水箇所を水辺の憩いの空間として整備する。

また、高遠さくらホテル前に階段状の親水護岸を設置し、カヌーなどの水遊びが楽しめるようにする。この場所は散策や釣りなど多くの人に利用されている場所であり、親水護岸を設置に際しては安全性の確保と自然環境の保全が第一である。

散策路沿いほりいでいパーク前の既存トイレの改修を行う。環境に優しいエコ型のトイレとする。

湖上には高遠湖の新しい楽しみとして、また、魅力ある湖景観を創出するために、噴水及びそれに付随する照明施設設置を検討する。

また、高遠湖一周を気軽に実現でき、湖でのあたらしい景観と眺望を与える吊橋整備を検討する。その吊橋とは別に高遠さくらホテルと前述した対岸の桜水を結ぶような「渡し」も検討する。

[水辺散策路利用区間イメージスケッチ]



拡幅 (高遠さくらホテル脇 ~ 勝間公民館)

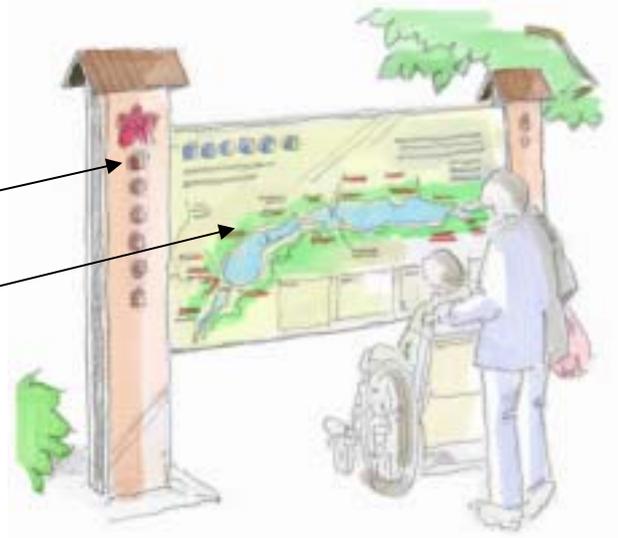


植栽整備 (高遠さくらホテル脇 ~ 勝間公民館 / サクラ・モミジ並木)

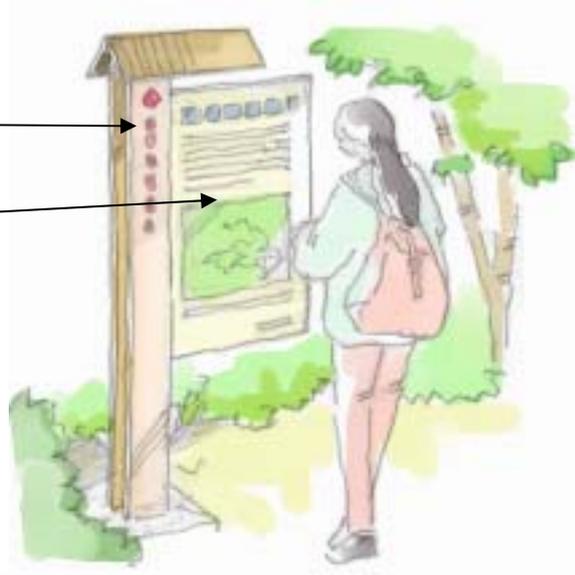


[サイン整備イメージスケッチ]

案内板
 水辺散策路コース名称・マーク
 美和湖 / 高遠湖周辺全域図
 水辺散策路コース図



解説板
 水辺散策路コース名称・マーク
 歴史・文化・自然の解説
 絵や写真を中心とした解説



誘導標識
 水辺散策路コース方向
 水辺散策路コース名称・マーク
 主要施設、資源方向

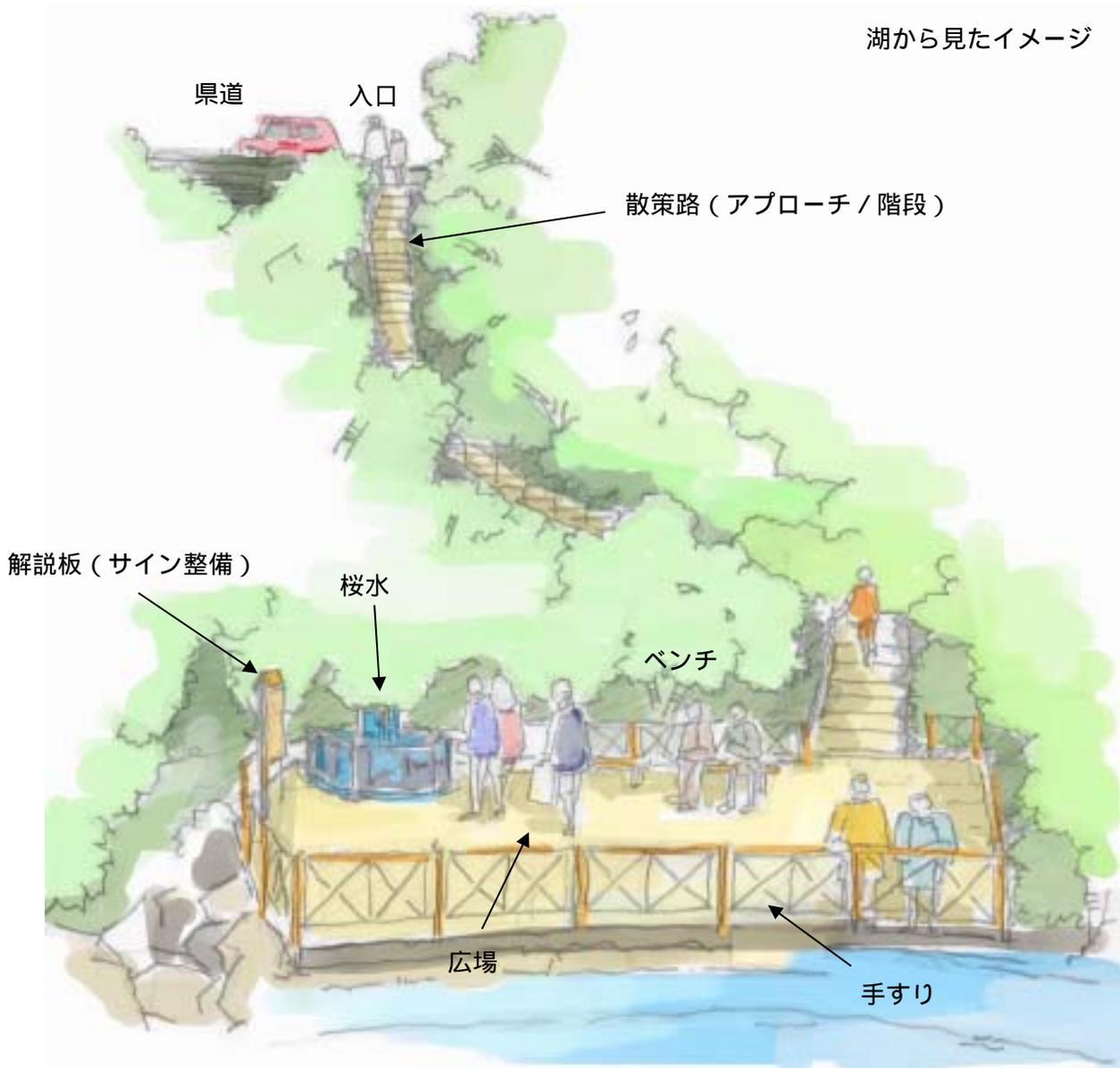


[桜水整備イメージスケッチ]

平面イメージ



[桜水整備イメージスケッチ]



[階段護岸イメージスケッチ]

整備イメージ



階段護岸（整備）

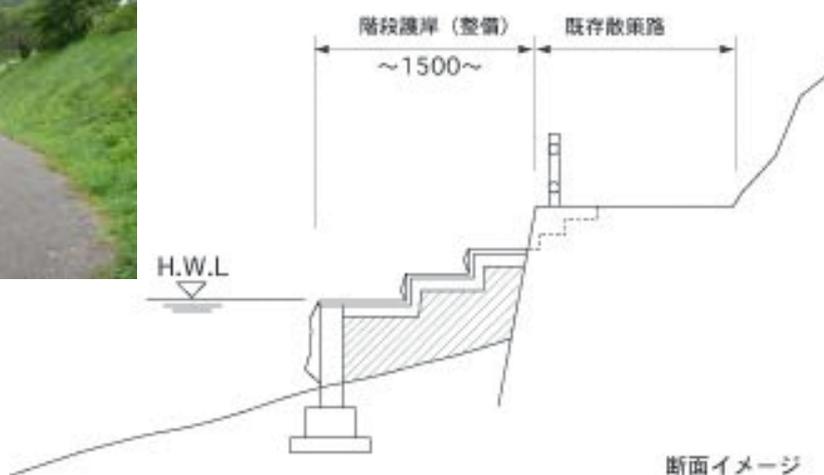
既存防護柵（一部、階段護岸への出入口を設置）

既存散策路

現況



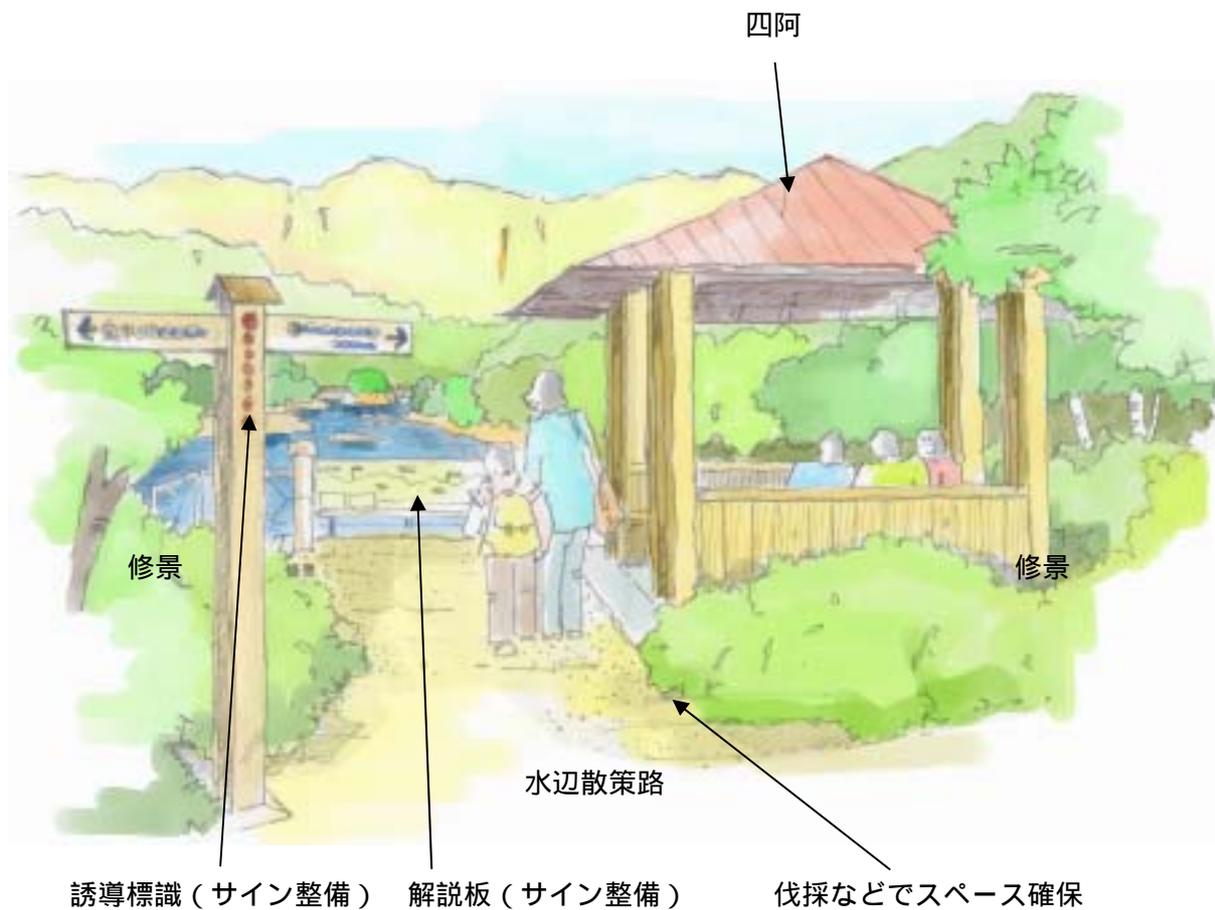
断面イメージ



断面イメージ

[展望休憩ポイントイメージスケッチ]

整備イメージ（勝間公民館手前のイメージ）



[水路修景イメージスケッチ]

整備イメージ

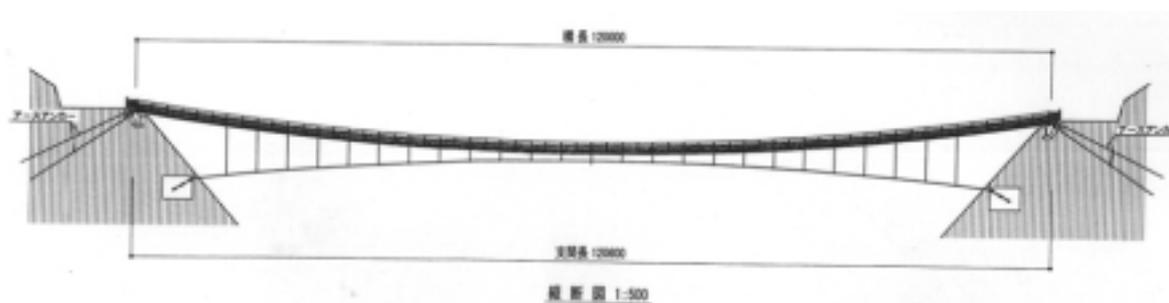


現況



高遠湖

[つり橋イメージスケッチ]



[噴水イメージスケッチ]



高遠さくらホテル

噴水・照明装置

高遠湖

5．維持管理計画

(1) 管理主体

ダム関連施設の管理・運営はダム管理者（国土交通省）となるが、公園等レクリエーション施設の管理・運営は、長谷村・高遠町・天竜川ダム統合管理事務所がおこなう。

また、管理・運営は周辺住民や各種団体などと積極的に連携しておこなう。とくに日常的な清掃や利用促進方策などは、周辺住民や各種団体の協力を得ておこなう。

住民にとっては、管理運営に加わることで、施設への愛着がでるとともに積極的な施設利用につながる。また、管理者にとっては、維持管理の低コスト化につながる。

(2) 水源地域協議会、部会との連携

「美和ダム・高遠ダム水源地域協議会」は、管理・運営のための確認、連絡、調整等を行い、また、協議会内にある部会は具体的な検討や各種提言をおこなう。

現在、部会は本「地域に開かれたダム整備計画」策定にあたって、「長谷村部会」と「高遠町部会」の二つが開催されたが、整備後もしくは活動開始後も、定期的開催し、利用状況や活動の進捗具合とともに管理運営の状態についても、管理者から報告を受けるなどして確認し、問題があればその原因や解決方法、または更なる利活用の方法等について検討し、各種提言を管理者におこなう。

また、管理運営について、住民や各種団体等へ参加を促し、連携や協力が得られる場合は、役割分担の調整等についても検討し提言する。

この部会での検討～調整・提言の内容については、協議会に報告し、協議会はその確認をおこなう。

6. ダム関連施設の利用計画

(1) 地元のコミュニティ拠点として利用

本年度末に美和ダム管理所に広報室「みわっこ」がオープンする。

ここを人材交流や情報交流など地元コミュニティの拠点のひとつとして、セミナーや各種ワークショップに、また、地元の様々な広報活動（情報発信）の場として利用を図る。

広報室「みわっこ」だけではスペースに限りもあるので、他の関連施設とネットワークを組み、幅広くコミュニティ活動を支えられるような運営を目指す。そのために、管理運営は住民や各種団体等の参加協力を得て、連携をとりながらおこなう。

(2) ダムのPR活動

美和ダム管理所広報室「みわっこ」は、美和ダム・高遠ダムについての施設概要や役割、歴史などダムPR活動の機能を担う。

ダムの紹介、案内についてはパネル展示だけでなく、模型やビデオ等を使って、興味をもってもらえるような展示を検討する。また、視点をかえた企画展示など誘客への取り組みを推進する。

とくに、企画展示では、展示切り口の斬新さや専門性の深さ、わかりやすい「うんちく」などに興味をもってもらえる場合が多く、思い切った内容とすることが肝要である。

ダム施設の見学会やダム施設についてのセミナー、ダム施設写生会や撮影会の開催等、ダムを身近な地元施設として理解してもらえるような活動も積極的に推進する。

(3) ダム関連施設や湖面の利用に関する窓口

ダム関連施設や湖面の利用に関する窓口は、道の駅「南アルプスむら」、美和ダム管理所広報室「みわっこ」、美和レイクハイランド（計画）を予定する。

道の駅「南アルプスむら」は施設位置や窓口としての分かりやすさから、美和湖・高遠湖水源地域全体の総合的な案内・窓口として位置づける。

ダム関連施設や湖面の利用に関する各種問合せの受付、予約業務等の窓口だけでなく、湖面利用ルールやマナー、遊びプログラムのお知らせから、将来的にはインストラクターの紹介等までも業務の視野に入れ、「とにかく、ここに来れば、全てわかる」という利用者にとって利便性の高いものとする。そのためには、担当者常駐が原則となるが、オフシーズンには、連絡電話等で対応し、近隣の役場や関連施設から必要に応じて担当者が駆けつけるなど、対応方法や窓口体制について検討する。また、詳細情報等が必要な場合や事故等の緊急事態も考えられるので、施設管理者や各関係機関とのネットワークの構築も検討する。

美和ダム管理所広報室「みわっこ」はレイクフロント及びその周辺の、美和レイクハイランドはレイクハイランド及びその周辺の、それぞれ案内・窓口とする。道の駅「南アルプスむら」の総合案内と連携し、肌理の細かい情報提供や迅速な対応を目指す。

(4) 自然観察等の総合学習の場として利用

小犬沢親水公園、中央構造線公園など、ダム湖畔の自然を活かした公園を利用して、総合学習の場としての様々な活動を推進する。

対象となる公園には、各種案内板や解説板、植物の名称板等を設置し、それと呼応して自然の案内パンフレットや学習方法のプログラム等を作成・提供する。これらは、一度、設置及び作成しておしまいでなく、季節など自然の変化に応じた情報提供が必要である。例えば、花の咲き具合や芽のつきかた、昆虫や魚の成長など、または大雨の後の様子や日照りが続いた時の様子など、月1回や臨時のお知らせなどをして、自然に対する興味を深めてもらうような対応をおこなう。

また、公園利用を小中学校の授業に積極的に取り入れられるよう、学習効果のあがる公園整備を検討する。例えば、解説方法や比較展示、断面を切断するなどの見せ方など、自然の公園でありながら、資料館や展示館的な工夫を検討する。

そのためには、小中学校の理科の先生や自然観察のグループ、自然に興味ある地元住民などの協力を得て、日頃の観察から見せ方の工夫、お知らせまで、連携し推進できる体制が必要となる。

(5) 都市住民や上下流域住民との交流促進

ダム関連施設や周辺の公園等を利用して、都市住民や上下流域住民との交流を促進する。

道の駅「南アルプスむら」や憩いと賑わいの拠点を目指したレイクフロント、美和レイクハイランド、仙流荘周辺公園などの公園を利用し、交流促進のための各種イベント等の開催を図る。

道の駅「南アルプスむら」は入口としての機能を利用し、イベントを知らない立ち寄り客も気軽に参加できる「市」などのイベント、レイクフロントでは舟着場を利用し、湖上でのフェスティバル、美和レイクハイランドでは広いグラウンドを利用したスポーツ大会や野外コンサートなどの大イベント、仙流荘周辺公園では溪流や河川敷を利用し、自然を取り入れたイベントなど、今まで難しかったイベントの開催での交流促進を検討できる。

7. ダム湖及び周辺区域の保全と利用計画

「美和ダム水源地域ビジョン」の活動テーマに沿って、ダム湖及び周辺区域の保全と利用計画を次の通りとした。

7 - 1 山・森の保全と活用

(1) 魅力ある山と森の創造と環境保全

本地域の90%以上を占める山と森は水資源涵養、土砂流出防止、水質浄化などの公益的役割とともに、住民にとっては多くの恵みを与えてくれる生活の場でもあり、多面的に地域の発展に貢献してきた。また、近年は都市住民を中心に自然とのふれあいが求められ、自然体験や自然学習、レクリエーション活動、交流の場として森林資源の利用に注目が集まっている。

こうした山と森に求められる役割・機能を十分に維持、発揮するためには、足元の清掃、下刈りから大掛かりな森林施業まで含めたきめ細かく適正な維持管理と秩序ある利用による森づくりが必要である。とりわけ、本地域の山と森の人工林はカラマツを主体とした針葉樹が大部分を占め、林齢的に除間伐等の保育事業を適期に実施していく必要がある。

しかし、林業従事者・後継者不足、木材生産コスト低減化など林業をとりまく環境は悪化している。そのため、担い手育成、機械化、新たな森林利活用が急務となっている。

この状況を踏まえ、住民参加による森と山の清掃、及び森林保育と森林利活用の推進を目指す。

景観クリーンアップ

住民参加の清掃は、地元の山と森への愛着と林業への関心、環境保全などの意識啓発も期待される。

具体的には、住民参加清掃週間の設定と、各地での「クリーンアップハイキング」など清掃イベントを開催を検討する。清掃範囲や清掃方法、イベントの進め方など詳細については、森林管理者や林業関係者などに住民を加え検討していく。

また、環境保全への意識啓発や環境クリーンアップの周知、クリーンアップ基金など、事業を継続し効果をあげるための方策についても検討する。

南アルプスの森保全活用

南アルプスの森保全活用として、ひとつは森林の手入れ、緑化、複層林化等を推進する。

森林総合整備事業などに基づく森林保育の推進、補助事業の導入、分収造林、複層林化などを趣旨とした施業計画の策定、保安林指定など計画的な森林整備、針葉樹のみに限らず、広葉樹の保育利用を推進する。

ふたつめに森林バイオマスエネルギーや間伐材の活用を検討する。

長野県林業総合センターなどと連携し、林業関係者や研究者、その他広く森林利活用の関係者を集めた「森林バイオマス等研究会（仮称）」等を定期的を開催していくことが考えられる。

研究会では、間伐材のバイオマスエネルギーや修景への活用など、それぞれの研究成果や技術開発、利活用に関する提案、先進事例などについて可能な範囲で情報公開し、意見交換や検討、共同研究や開発提携などを支援する。

研究開発には多くの資金と時間が必要となる。そのため、研究開発に対する資金補助等の優遇措置や基金の創設を検討する。

(2) 自然を活かした観光振興

エコツーリズムの推進

本地域は南アルプスの北の玄関口であり、多くの登山者や観光客が訪れる。その山と森は、美和湖、高遠湖、三峰川とともに、本地域の豊かな自然環境を構成する重要な観光資源である。道路交通網の整備と近年のアウトドア志向、健康志向などの高まりとともに、この大自然を求めて訪れる人が多くなった。本地域の観光振興を図るには、この自然の有効利用が欠かせない。

近年はこの自然とのふれあいを体験する自然体験型観光、エコツーリズムが注目されている。ありのままの自然に接し、自然から様々なものを学ぶ観光である。観光振興の柱のひとつとして、このエコツーリズムを推進する。

また、このエコツーリズムをより効果的に実施するために、エコツーリズム全般について検討する、住民、各種団体、市町村、県、国からなる「長谷・高遠エコツーリズム協議会（仮称）」を設置することが考えられる。

そこで、本地域に相応しいエコツーリズムのあり方やルール、エコツーリズムのメニューの洗い出しからプログラムの作成、ガイド・インストラクター等の養成（講座開催、講師招聘、免許登録等）、エコツーリズムの推進のためのPRや各種イベント、様々なエコツーリズム間の調整や連携、その他エコツーリズムに関する問題解決や調整事項等を検討する。

このエコツーリズムのプログラムは、地元や住民にとって実りある（関われる）仕組みのものとするを前提とする。

また、この「長谷・高遠エコツーリズム協議会（仮称）」には、本地域に関わる旅行者や研究者などの参加も検討する。

そして、ガイド養成にあたっては、本地域全体のガイド養成として検討する。また、県の自然観察インストラクター制度などとの連携も考えられる。

(3) 環境保全のための人材育成

森の番人の育成

林業後継者等の人材を確保し育成する。

受け入れ先の条件整備、人材確保、人材育成の3つを推進していく。

また、林業とふれあう機会を多くつくるため、県林業総合センターが実施している林業作業体験講座、森林教室、市民講座などとの連携や、各種団体、森林インストラクター、樹木医などの関連養成機関等との連携強化を検討する。

7 - 2 河川の環境保全と活用

(1) 川の環境保全・整備

三峰川クリーン・ルールの策定と啓蒙

本地域には三峰川、黒川、山室川、藤沢川と、それらに注ぎ込む小河川があり、それらは本地域の地形的骨格をなすとともに、住民にとっては昔から生活と結びついた場所であり、ふるさとの川に対する郷愁は根強いものがある。

しかし、幾多の災害による河川改修等やダム建設による下流域の水量低下などにより、水質を含む河川環境の悪化や親水レクリエーションの活動への支障も懸念されている。

特に魚類の棲息条件が悪化、かつて多く見られたカジカ等の棲息がほとんど見られない状況となっている。

この三峰川の景観・水質を保全するためのルールを策定し、普及させる。

また、三峰川をはじめとする本地域内のすべての河川を対象に、魚類が棲息する清流を目指す。そのため、広く河川環境保全や河川利用に関する総合的な検討をおこなう場を設ける。例えば「三峰川協議会（仮称）」の設置。

この協議会には、現在、三峰川の将来像や環境保全などを検討している「南アルプスわくわく倶楽部」や「三峰川みらい会議」なども含み、クリーン・ルールとして、保全すべき景観とその保全方法（緑化、石積み、植栽、有害帰化植物の駆除等）、水質保全のための利用ルール（排水、汚水、ゴミ、土砂等の対策）の策定、保全のための啓蒙や周知の方法、その他河川環境保全に関することを検討する。

(2) 遊びと学びの川の創出

川遊び・学びのプログラムの提供

三峰川をはじめとする本地域の河川は、昔から住民の憩いの場所であり遊び場でもあった。

現在、河川整備などにより河川環境は変化し、昔のような川での遊びが難しい状況だが、親しみ遊ぶ場所として川への期待は変わらない。また、河川は森林や湖とともに有効に利用することで、観光に果たす役割も大きい。

以上のことから、本地域の河川を、より安全に遊び、また、自然を学ぶ場所として、川に親しみ、川で遊ぶプログラムを創出し、ガイド等の養成を検討し、利用の促進を図る

上記の「三峰川協議会（仮称）」で景観・水質保全のルールとともに、遊び・学びのプログラムやガイドの養成などの検討が考えられる。例えば、川遊び・学びのメニューの洗い出し、遊び・学びのプログラムの作成、遊び・学びのガイド・インストラクターの養成、その他川遊び・学びに関すること。その他、川マップ、三峰川CD、三峰川達人、川ツアーなど、川利用のアイデアについて広く検討する。

(3) 安全・安心の川づくり

清流の里づくり

三峰川をはじめとする本地域の河川は、住民の生活に密着し、遊び・学びの場所であることから、こうした生活を守る治水安全度の向上から身近な水質保全まで、安心、安全が最優先で求められている。

「三峰川協議会（仮称）」に上下流域の住民や自治体、河川管理者等が参加するなど、地域住民・自治体や関係機関の連携によって、河川の安全・安心のための事項について検討する。

検討事項として、水質維持管理体制づくりと維持管理方法、複数ポイントでの定期的水質検査、独自の環境基準、水質汚染防止のための住民への啓発と環境保全の周知などが考えられる。

水質維持管理を厳しく行うために、上下流域の住民や自治体、関係機関など幅広い連携を目指す。また、よりきめ細かな河川環境保全のために、協議会とは別に流域ごとの推進母体の設置も検討する。

7 - 3 美和湖・高遠湖 環境の保全と活用

(1) 利用ルールの策定と周知

現在、美和湖・高遠湖は釣り、カヌー、ボート、水上バイクなどに利用されている。今後、湖周辺の施設整備が進めば、更に多くの湖面利用者が見込まれ、事故やトラブルの可能性も大きくなると思われる。

その防止のために、湖面利用のルールの策定は必要である。

ルールを策定するにあたって、美和湖・高遠湖のレクリエーション利用や保全を総合的に検討する「湖面利用協議会（仮称）」等を設置する。そして、そこで、様々な状況に対応できる湖面の利用ルールを検討する。

そのため、「湖面利用協議会（仮称）」は湖管理者と湖面利用者だけでなく、広くレクリエーション関係の専門家も参加して構成することが望ましい。

ルールはレクリエーションの種類に応じたエリア区分や利用時間の設定、事故の対応等、利用そのもののルールから、ゴミの持ち帰りなどの環境保全に対する遵守事項なども含むとする。

また、ルールは、観光客だけでなく、利用する全ての人を対象として、周知徹底を図る。

周知には役所や観光協会等だけでなく、道の駅「南アルプスむら」や美和ダム管理支所広報室「みわっこ」などとも連携を図る。

(2) 湖遊びプログラムの作成

美和湖・高遠湖のレクリエーション利用をより促進するために、湖で遊ぶプログラムを創出する。釣り、カヌー、ヨット、ボート、水上バイク、湖岸散策、サイクリング、流木を使った日用品や家具製作などの遊びメニューを洗い出すとともに、新しい湖の遊びについても検討し、こうした遊びのプログラムを作成する。

この遊びプログラムは上記の利用ルールとともに広くPRするとともに、将来的にはイベント等でインストラクターによって紹介することなども検討する。

(4) インストラクターの養成

湖でのレクリエーションをより多くの人々に安全に体験してもらい、湖面利用者の拡大を図るため、インストラクターの養成を検討する。

インストラクターは湖での遊びなどを紹介し指導するだけでなく、利用ルールやマナーを周知させ、利用者数の増加や事故防止、環境保全などの役割も担う。

インストラクターの養成は専門機関との連携なども含めて検討する。また、養成にはレクリエーションそのものだけでなく、美和湖・高遠湖の特徴や周辺環境等についての講習等も検討する。

7 - 4 山村文化の継承と活用

(1) 地域の風土・景観の保全と形成

ふる里原風景の保全・創造

地域の風土・文化から生まれた「らしさ」「イメージ」にこだわった景観づくり・町づくりは、地域の対外的なイメージアップのみならず、住民にとっては地域への愛着と誇りを芽生えさせ、来訪者には感動を与え、観光資源としての役割を担うものである。

長谷村の「長谷村らしい景観づくり」、高遠町の「ふるさと高遠の景観基本計画」など、景観形成の意識啓発や普及、住民協定の締結のほか、街道整備やサイン整備等の関連事業を進めている。このような状況をさらに推進し、地域固有の風土、伝統的街並み、農山村景観、歴史・文化資源等を保全し創造することを目指す。

まず、推進の核となる場を設ける。例えば「ふるさと原風景保全創造協議会（仮称）」などが考えられる。広く意見やアイデアを集め、専門的な検討ができるように、住民、自治体等に景観や歴史、建築などの専門家を加えたメンバーで構成する。

そこでは、景観・街並み・歴史文化資源等の保全状況、残すべき保全・保護対象物、保全・保護方法や整備方法、景観についてのガイドラインや地区計画等、地域らしさ・イメージから地域のデザイン理念、地域の風土・景観・歴史文化資源についての紹介（PR）などを検討する。

本水源地域内で建設予定の建物等についても、デザインや仕様等について確認できる仕組みを検討し、特に公共施設については、周囲の景観に配慮した地域のイメージに相応しいデザインを目指す。

(2) 山村文化体験と再発見

「高遠の学・長谷学」の掘り起こし・伝承・発信

長谷村には国指定重要文化財である熱田神社と村指定の文化財が27件ある。また、猿孝行物語の民話などが伝承されているほか、分杭峠に発見された「気場」を活かした「気の里構想」が計画されるなど、特徴ある山村文化が形づくられている。

高遠町は桜の名所として名高い高遠城址公園があるほか、歴史に由来した江島祭り、伝統芸能である高遠囃子などが伝承されている。また、地域に根ざした食文化として高遠そばも産業振興の面からその活用が期待されている。

以上のような「長谷・高遠」の固有の文化、伝統芸能、生業等を住民が改めて発掘し、学び、伝承・発展させ、地域の誇りを醸成するとともに、その継承者・伝承者を育成し、地域固有の交流資源としていくことを推進する。

そのひとつとして、「高遠の学・長谷学」を学ぶ場を設け、地元の郷土史家、伝統芸能の担い手、地元学に造詣の深い有識者などを講師に、誰でも参加できる勉強会や検討会等を開催する。また、地域の隠れた文化や伝承などの発掘にも努め、写真、ビデオ、ヒアリングなどで記録していくことを検討する。

7 - 5 都市との交流促進と流域連携

(1) 都市住民との交流促進

グリーンツーリズムの推進

近年、名所旧跡を巡る観光から、「体験」や「交流」が実現できる旅行に人気が集まっている。加えて、都市住民の間では自然志向、ふるさと志向にある人が増え、農山村の普段の暮らしを体験してみたいと思う人々も増えてきたものと思われる。

本地域は、南アルプスの玄関口であるとともに、美しい川、湖がある環境の中で、脈々と農村文化が培われてきた地である。

このような培われた農村文化を活かし、農林業体験、伝統工芸体験、民泊（農泊）などを通じて、都市住民との交流を促進することを検討する。また、児童生徒、住民の視野の拡大や国際感覚を醸成するため、国際交流にも積極的に取り組んでいくことを検討する。

国際交流の推進については、従来行われている「中学生の海外派遣」事業等を継続していくとともに、経済交流の推進等国際交流を通じた新たな可能性についても検討していく。

(2) 上下流域住民の交流と連携

三峰川・天竜川フェスティバルの開催

河川の環境保全、治水、持続可能な利活用に関しては、流域単位での取り組みが不可欠である。本地域の河川を広域的にみると、仙丈ヶ岳を源流とする三峰川が南、西、そして北へと流れを変え、赤石、伊那山脈の間をぬって美和ダムに注ぎ、伊那市で天竜川に合流して太平洋に注いでいる。

以上を踏まえ、三峰川・天竜川の上下流域住民の交流連携を進め、河川環境の保全や河川を通じた地域づくりの輪を広げていくことを検討する。

毎年7月、美和湖・高遠湖の上下流域の交流を促進し、水源地域の重要性や水や緑に関する関心を高める「三峰川サマーピクニック」が実施されている。こうした既存のイベントを核に、三峰川・天竜川をフィールドとする上下流域住民・住民団体、各種団体、市町村、県、国といった様々な主体が参加し、流域の交流連携促進、地域活性化方策や環境保全の意識啓発などを図る「三峰川・天竜川フェスティバル（仮称）」を開催していくことが考えられる。

(3) 交流促進のための情報発信

長谷・高遠情報発信

地域内外の交流の促進を図るためには、地域情報の発信が有効な手段である。特に、近年の急速なIT化の進展とインターネットの普及により、その地域の情報を求める人に、魅力あるホームページの開設等を通じた情報提供を行うことは、効果的な集客手段となりうる。

また、地域の「何」の「どんなところ」を紹介するのかを検討することは、地域資源の発掘・再発見につながる行為であり、前掲の「高遠の学・長谷学」の掘り起こしにおけるアウトプットのひとつといえる。一方、地域内外の人が、そうした情報の恩恵に浴するためには、情報通信基盤の整備も必要となってくる。

以上を踏まえ、本地域における交流促進のため積極的な情報収集・発信を行うとともに、そのための基盤整備に取り組むことを検討する。

情報収集・発信の取り組みとして、地域固有の資源、いわば地域の「宝」を発掘する「長谷・高遠宝探し隊（仮称）」を結成することが考えられる。地域住民にとっては当たり前のものでも、外の人から見れば新鮮で驚きを持って迎えられる資源もあるので、宝探し隊には外部の人も加えることが望ましい。また、従来の観光マップなどに載っていない地域資源の発掘にも力を入れる。

宝探しの結果得られた地域資源は、「長谷・高遠宝マップ」として印刷するとともに、その情報をインターネットにより広く配信することが考えられる。

情報発信には地域センターや美和ダム管理所広報室「みわっこ」なども積極的に活用する。

また、情報収集・発信の基盤整備として、地域内の公共施設や主要施設でのLAN・イントラネット化を進め、住民や来訪者が情報を取得しやすいような環境整備を検討する。

そのうえで、前述の「宝マップ」に関する情報を受け付ける掲示板をホームページ上に設けることが効果的で、宝マップの随時更新を図り、飽きのこないホームページづくりを目指す。

（４）交流促進を担う人材の発掘と育成

長谷・高遠案内人育成

本ビジョンにおいては、地域内外の交流促進を図る事業をいくつか掲げているが、大切なのはその事業を担う「人」であり、事業の正否はプログラムの質とともに優秀な人材を確保・育成できるかにかかっている。

以上を踏まえ、交流促進を担う人材の発掘と育成に積極的に取り組むことを検討する。

そのひとつとして、エコツーリズムやグリーンツーリズムのガイド・インタープリターを育成し、登録・斡旋などを行う「長谷・高遠案内人倶楽部（仮称）」を結成することが考えられる。

ガイドの育成に当たっては、地域の名人・達人を講師に迎えるとともに、エコツーリズム育成機関等から講師を迎えた研修会の実施を検討する。また、長谷・高遠案内人の質を確保するため、一定の講習時間受講や試験などが必要な免許制の導入を検討し、免許を持ったガイド等の登録をおこなう。併せて、ガイドが行うツアーの種類、コース・フィールド、所要時間、料金などを整理し、インターネットなどで情報発信し、参加受付も行うような展開が考えられる。なお、ホームページは前掲の長谷・高遠情報発信におけるホームページを利用またはリンクさせることが効果的である。

なお、環境が脆弱なエリアには複数のツアーが同時に入らないようにするなど、統一的なルールを定めることも必要である。

7 - 6 地域資源を活かした産業活性化

(1) 特産物の開発

長谷・高遠ブランド産品開発

本地域では、加工・販売・飲食が一体的に体験できる「南アルプスむら」事業の推進や、気の里ビール・南アルプスミネラルウォーターの開発、高遠そばの普及事業など、特産品開発に関する取り組みがみられる。

地域経済の活性化のため、今後ともこうした特産品開発を進めるとともに、産品に付加価値を高め、戦略的な流通・販売を展開するためのブランド化事業を検討する。

そのため、「長谷・高遠ブランド産品開発研究会（仮称）」を設置することが考えられる。

研究会には既存の産品開発事業者のほか、地域の郷土食づくりの名人、食生活に関する市民団体、農林業従事者、食品加工に関する研究者など幅広い人材を募り、地域資源を活用した特産品づくりを目指す。また、産品に情報を付加し、付加価値を高めることも重要なので、例えば地域の伝承・言い伝えにつながるような産品の開発も視野に入れる。

さらに、産品単体ではなく、「長谷・高遠ブランド産品」として流通・販売していくため、安全・安心・本物などに関する「長谷・高遠ブランド」の基準を設け、認定された産品については、統一ロゴなどを設けることなども検討する。

市町村・県は、このような特産品開発について、加工場や加工技術の提供などを通じて支援していくことが望まれる。

ダム底質土活用プログラムの実施

美和ダム再開事業における貯水池の掘削工事により発生した大量の堆積土は、盛土材や埋め戻し材などの道路建設関係やほ場整備関係に多く活用されている。

この堆積土は二酸化珪素などのミネラルを多量に含み、また、作物に被害を及ぼす土壌伝染病菌に殆ど汚染されていないため、育苗土や土壌改良材等の栽培用土として利用価値が高いことが確認されている。この堆積土の特徴を活かし、より利活用を図ることで、堆積土処理の事業コストの削減と地域経済への貢献等が期待されている。

堆積土の利活用をより推進するため、採取から保管、流通までのシステムやプログラムを検討し確立する。また、流通にあたっては、地域の特産品としての商品開発を推進する。

(2) 市場開発・販路の拡大

特別村民・町民の組織化

産業の活性化のためには、付加価値の高い特産品の開発とともに、市場開発・販路の拡大が必要となる。しかし、広告宣伝費などに用いる資金力が決して潤沢とは言えない場合は、消費者を育成していくことも重要であり、そうした視点での市場開発・販路拡大への取り組みを検討する。

そのひとつとして、地域のファンを組織化し、機関誌の発行、定期的な産品提供や交流活動等を提供する。また、インターネットを活用した産品販売もおこなう。

具体的には長谷・高遠の特別村民・町民の管理・運営を行う「特別村民・町民運営事務局（仮称）」を設置することが考えられる。その中で、特別村民・町民のしくみについて検討する。例えば、年会費を設け、特産品を産直で提供、イベントや地域のトピックスなどに関する機関誌の送付、交流イベント等への招待、宿泊施設・おみやげ物等の割引などである。

また、特別村民・町民を交流イベントに招いた際、地域の郷土料理や長谷・高遠ブランド産品の開発による特産品を提供し、消費者の生の声を聞き、それを特産品づくりにフィードバックさせていくような取り組みについても検討する。

（３）担い手の確保育成

農業担い手確保・育成

本地域の農業は経営規模が零細であり、農家戸数の減少、農業従事者の高齢化、農業後継者不足といった問題が深刻化している。

そのため、現在の農業経営体の基盤強化を図るとともに、将来における後継者を育成する教育を押し進め、また、新規就農希望者を受け入れる施策を積極的に推進していくことが必要である。農業経営体の基盤強化として、組織育成交付金などを通じて営農集団組織育成を図る。

また、将来における後継者を育成する教育として、総合学習の時間などを利用して、児童生徒を対象とした農業体験学習を推進する。

そして、新規就農希望者を受け入れる施策として、定年帰農者・新規就農希望者を確保するために、U・Iターン者を募集し、相談・受付を行うとともに、休耕田や空き家を地域から借り入れる窓口となる組織「長谷・高遠ふる里倶楽部（仮称）」を設けることが考えられる。また、受け入れた就農者に対しては、生産技術やマーケティング手法などを学ぶ農業塾を開催するなどして、時代に対応した農業後継者として育成していくことを検討する。

（４）産業基盤整備

活気ある商店街づくり

本地域における商業は伊那市周辺を核とした商圈が構成され、近年、道路網の整備や大型店の進出により商圈の広域化が進み、地域内での購買力の低下が目立っている。

そうした状況により、特に長谷村では担い手の高齢化による商店の閉鎖や後継者のいない商店が多くなるなどの問題が生じている。

既存店舗については、協業組織による運営の検討を通じて、集約商業活動の形成を促進する。空き店舗については、地域住民や商工会などによる借り上げを検討し、住民や観光客の休憩所としての活用や、自家菜園により生産した米・野菜類などを販売する地産地消の拠点とすることなどを検討する。また、空き店舗活用について広く企画コンペを実施し、採用者にはIターンしてもらい、実際に店舗を運営してもらうことなども検討課題として考えられる。

7 - 7 いきいき暮らしづくり

(1) コミュニティ活性化

地域ネットワーク支援

本地域はJRバスが主な公共交通機関であるが、過疎化の進行と主たる交通手段が自家用車に代わったことにより利用者は減少し、そのため路線の廃止、便数の削減、料金の高騰など、益々利用しにくい環境へと進んでいる。

そのため、コミュニティの維持を図り、住民福祉の充実を図るという観点から、住民の日常生活における交通手段の確保を検討する。自家用車を持たない、いわゆる交通弱者に配慮した福祉バスや患者輸送タクシーなどを、民間事業者との連携を視野に入れながら、コミュニティ交通の充実を検討する。

また、本地域内には各種ボランティア団体、地域づくり団体、趣味やスポーツなどのクラブ・サークル、老人クラブがあり、各種活動が行われている。

これらの活動をさらに活発化させ、本ビジョンで掲げる各種事業に住民の積極的な参加を求めするため、これらの団体の交流・連携を進め、活動拠点を整備するなどして、コミュニティの活性化を目指す。

そのひとつとして、そうした団体が人材交流、情報交流を行い、連携を図る「長谷・高遠コミュニティ会議（仮称）」を発足させることが考えられる。会議では交流セミナー・ワークショップを開催し、人的交流・情報交流を促進するとともに、各団体の連携に基づく地域づくりの方策について検討をおこなう。会議の運営に際しては、参加団体を紹介するパンフレットを作成するとともに、会議の内容やと参加団体の活動状況などを記載する機関誌を発行することなどが考えられる。

(2) 生活基盤整備

環境に優しい水源地づくり

本地域のゴミ処理は広域処理体制のもと実施されている。しかし、一般廃棄物は増加傾向にあり、自家処理（生ゴミ処理）やリサイクルを推進していく必要がある。

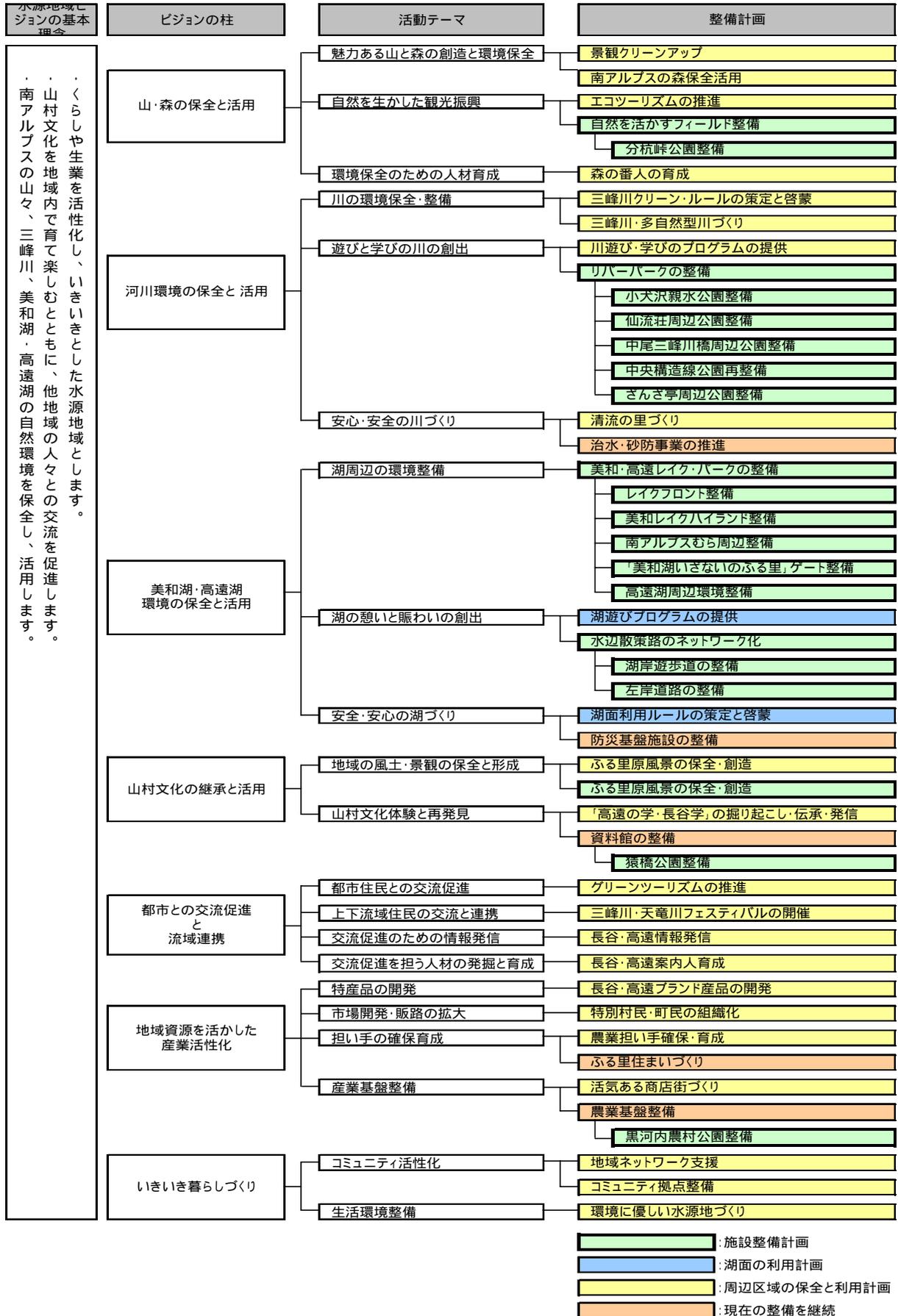
し尿処理については、下水道等の整備が順次進められているが、未だ整備水準が低い地域もある。

以上を踏まえ、ゴミの分別収集の徹底を図るとともに、リサイクルの推進や下水道の整備などを進め、環境に優しい水源地を目指す。

そのひとつとして、意識啓発のためのリサイクルに関するイベントの開催、各家庭でのゴミの減量化対策のための生ゴミ処理機購入補助などを検討実施する。

8. 整備一覧

8-1 水源地域ビジョンと整備計画



8 - 2 整備計画一覧

長谷村・施設整備計画

2004/03/30現在

番号	施設整備計画	整備内容	事業の進捗状況	事業主体			備考
				基盤整備	施設整備	維持管理	
1	レイクフロント整備	・ゲートボール場	完成				
		・テニスコート					
		・環境護岸	新規	国土交通省	国土交通省	国土交通省	
		舟着場(ボート乗場)					
		園路・デッキ・駐車場等					
トイレ整備							
2	南アルプスむら周辺整備	・多目的広場	H15完成				
		・お花見広場					
		・児童遊具広場					
		・四阿					
		公衆トイレ	新規	長谷村	長谷村	長谷村	
3	「美和湖いざないのふる里」ゲート整備	村の玄関口にイヅモメント	新規	長谷村	長谷村	長谷村	
4	美和レイクハイランド	多目的グラウンド	新規	国土交通省	国土交通省 長谷村	長谷村	
		オートキャンプ場					
		駐車場					
		憩いの広場					
		展望エリア					
		トイレ・艇庫等管理施設					
		ダムPR館					
親水護岸・舟着場(発着場・搬路等)							
5	仙流荘周辺公園整備	・マレットゴルフ場	完成				
		駐車場等	再整備	長谷村	長谷村	長谷村	
		散策路等	新規				
6	小犬沢親水公園	・木橋	H11完成				
		水車小屋	新規	国土交通省	国土交通省	長谷村	
		四阿					
		メダカ飼育水路					
		ホタル飼育水路					
		ショウブ池、湿地					
		畑・田んぼ・果樹園					
散策路・吊橋等							
7	中央構造線公園再整備	見学スペースの確保(デッキ等)	新規	国土交通省	国土交通省	長谷村	
		露頭の保全措置					
		説明案内板					
8	猿橋公園整備	園地(碑、サイン、修景等)	新規	国土交通省	国土交通省	長谷村	
9	中尾三峰川橋周辺公園整備	・テラス、デッキ	完成				
		四阿	新規	長谷村 長野県	長谷村 長野県	長谷村 長野県	
		中尾自然公園等					
		飯島堰堤魚道改良					
10	分杭峠公園整備	休養・見学・駐車スペース整備	新規	長谷村	長谷村	長谷村	
		散策路、修景					
		トイレ					
11	ざんざ亭周辺公園整備	・親水広場	完成				
		杉島グラウンド	新規	国土交通省 長谷村	長谷村	長谷村	
		トイレ					長谷村
12	黒河内農村公園整備	多目的広場	施工中 H16完成 予定	長谷村 国土交通省 長野県	長野県	長谷村	
		公衆トイレ					
		駐車場					
13	湖岸遊歩道の整備	水辺散策路右岸	新規 再整備	国土交通省 長谷村	国土交通省 長谷村	長野県 長谷村	
		水辺散策路左岸	新規 再整備				長谷村
14	美和ダム左岸道路			国土交通省	国土交通省	長谷村	一部協議中区間

高遠町・施設整備計画

2004/03/30現在

番号	施設整備計画	整備内容	工事種目	仕様・規格	事業主体			備考
					基盤整備	施設整備	維持管理	
15	高遠湖周辺環境整備	・高遠城址公園						
		・信州高遠美術館						
		・高遠歴史博物館						
		・高遠さくらホテル						
		・ほりでいパーク						
		(1)水辺散策路利用区間	散策路新設	w=2.5m×1500m	国交省 高遠町	国交省 高遠町	高遠町	
			植栽整備	高木 低木				
			その他の環境整備	防護柵、手すり等				
		(2)サイン整備	案内板	木+アルミ	高遠町	高遠町	高遠町	
			誘導標識	木+アルミ				
			解説板	木+アルミ				
		(3)桜水整備	散策路	w=1.5m、入口部含む	国交省	国交省	国交省 高遠町	
			広場	ベンチ、手すり等含む				
			桜水					
		(4)階段護岸整備		コンクリート護岸				
(5)眺望・休憩ポイント整備	さくら赤丸脇	修景	高遠町	高遠町	高遠町			
	勝間公民館手前	広場、四阿、ベンチ等						
	美和ダム上	修景						
	大明神橋脇	広場、ベンチ等						
	除組高台	広場、ベンチ等						
(6)トイレ整備	既存トイレ改修	男女+多目的トイレ						
(7)水路修景整備			国交省 高遠町	高遠町	高遠町			
(8)渡し整備								
(9)吊り橋整備								
(10)噴水整備		照明含む						
	計							